Veritas NetBackup™ リリースノート

リリース 8.3

マニュアルバージョン 1

VERITAS™

Veritas NetBackup™ リリースノート

最終更新日: 2020-09-15

法的通知と登録商標

Copyright © 2020 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、および NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所から入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritasがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19 「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202 「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Veritas SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup 8.3 について	9
	NetBackup 8.3 のリリースについて	9
	NetBackup の最新情報について	10
	NetBackup サードパーティの法的通知について	10
第 2 章	新機能、拡張機能および変更	11
	NetBackup の新しい拡張と変更について	11
	NetBackup 8.3 の新機能、変更点、および拡張機能	11
	NetBackup による WORM ストレージデバイスへのデータの不変性と 削除不可性の提供	14
	データベースの機能強化による CPU 負荷の削減	14
	PureDisk および NetBackup Deduplication Appliance 用の OpsCenter データコレクタのサポートを終了	15
	OpsCenter 8.3 による動的ビューの提供	16
	OpsCenter Web UI を使用した OpsCenter のパフォーマンスチュー ニングの監視	16
	ユニバーサル共有サポートの機能強化	16
	RBAC の機能強化	17
	NetBackup Web UI でのストレージサーバーの構成	18
	Veritas SaaS Backup サイトへの新しいリンクを NetBackup Web UI に追加	18
	NetBackup Web UI に追加された通知アイコン	18
	NetBackup Web UI でのポリシー管理について	19
	NetBackup Web UI でのシングルサインオンのサポート	19
	NetBackup Web UI に追加された構成設定	19
	NetBackup Web UI を使用したオンプレミスの場所からクラウドへのイ メージの共有	20
	NetBackup Web UI を介したシステムログへの監査イベントのエク スポート	20
	NetBackup マスターサーバーとメディアサーバーの CALLHOME_PROXY_SERVER オプション	20
	NetBackup 8.3 の RESTful API	20
	2048 ビット以上のキー強度を持つ CA への NetBackup CA 移行に ついて	24
	外部の Key Management Service (KMS) サーバーのサポート	25

NetBackup 8.3 のサポートの追加および変更点	25
Linux と Windows でサポートされる個別リストアの拡張属性とファイル形式	26
NetBackup 8.3 ライセンスの機能拡張	27
nbdeployutil ユーティリティのパフォーマンス向上	28
NetBackup 8.3 とともに使用する新しい SuSE Linux コンパイラ	28
Linux メディアサーバーの永続的なロボットパスのサポート	28
将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド	29
任意の btrfs ファイルシステムから NetBackup データベースへの移行	29
Java GUI と JRE のオプションインストール	29
ユーザーセッションのデフォルト値の変更	29
インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するか、NetBackup 8.3 にアップグレードする	30
クラウド資産用の変換を必要とする新しい資産サービス API	31
MSDP クラウドを使用したクラウドへの重複排除データのアップロードについて	32
NetBackup Web UI からの CloudPoint の利用	33
Nutanix Files のファイル共有のサポート	33
クラウド仮想マシン上のファイル、フォルダおよびボリュームの個別リストア	33
NetBackup Web UI からの RHV 作業負荷の更新	34
VMware と RHV の資産の移行が必要なデータベース変更	34
VMware インスタントアクセス用の RHEL での独自の (BYO) サポートの構築	34
NetBackup インストールへの、Hypervisor ポリシー用の Nutanix Acropolis Hypervisor (AHV) プラグインの追加	34
Microsoft SQL Server エージェントの機能強化および変更	35
Microsoft SQL Server インスタントアクセスのサポート	36
Microsoft SQL Server ストリームハンドラの導入	36
Microsoft SQL のスタンドアロンおよび可用性グループ (AG) データベースのサポート	36
NetBackup for Oracle の拡張機能	36
Oracle ストリームハンドラの導入	37
NetBackup のインストールへの MongoDB プラグインの追加	37
レガシーログフォルダ構造の変更	38
ベアメタルリストアの機能強化	38
MSDP マルチドメインサポートの追加	38
Veritas Resiliency Platform と NetBackup の統合	39
NAS の作業負荷の機能強化	39

第 3 章	操作上の注意事項	40
	NetBackup 8.3 の操作上の注意事項について	40
	NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	41
	CA の移行を開始した後、接続エラーが発生することがある	41
	Windows で NetBackup 8.3 のアップグレードが失敗した場合に以 前のログフォルダ構造に戻す	41
	ネイティブインストールの要件	42
	NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名 を使用する必要がある	42
	インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールし ないでください	42
	HP-UX ItaniumのvPars SRPのコンテナのサポートについて	43
	NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	43
	BigData ポリシーを使用する作業負荷のバックアップが失敗する	43
	ストレージで WORM ロックされたままの場合でも、NetBackup カタロ グからイメージを期限切れにできる	43
	非 WORM 対応のストレージから NetBackup がイメージを期限切れ にしようとすると、ジョブの詳細にエラーが表示される	44
	NetBackup CA の移行またはアップグレードの開始時における NetBackup Web サーバー証明書の更新の失敗	44
	リソースグループ名にピリオド (.) が含まれると Microsoft Azure のバック アップが失敗する	45
	子ジョブが失敗した、または取り消された場合に、SLP がマルチスト リームバックアップを再試行しない	45
	異常な状況下で、SLP のコピーが誤って期限切れになる	45
	個別リストアではターゲットに十分な空き容量が必要	46
	デバイスツリーに表示されている古いデバイス	46
	一時デバイスがファイルシステム資産として一覧表示される	47
	IPv6 アドレスをクライアント名またはイメージ名として使う場合の NetBackup の制限事項	47
	NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項	47
	NetBackup Web UI で推奨される 1280 x 1024 以上の画面解像度	47
	NetBackup Web UI ポリシーのリストに古いポリシーの詳細が一時的 に表示されることがある	48
	NetBackup Web UI でのセキュリティイベントリストの検索の制限事項	48
	Web UI から NetBackup 管理コンソールセッションを終了するとユー ザーがログアウトされない	48
	NetBackup 8.3 がサポートするアクセス制御方式	49
	X フォローディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特 定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある	49

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する	49
NetBackup 管理コンソールの初期化時に機能が低下する	49
Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する	50
NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項	50
NetBackup マスターサーバーを 8.3 にアップグレードした後、BMR バックアップジョブがエラーを報告することがある	50
BMR のリストアでフォーマットとボリュームの作成手順に長時間かかることがある	51
NetBackup クラウドの操作上の注意事項	51
RHEL 8 でクラウドリカバリホストを構成する前に	51
Gov クラウドまたは中国地域でパブリッククラウドがサポートされない	51
AWS マーケットプレース AMI から作成されたインスタンスでインデックス付けがサポートされない	51
AWS Amazon Linux AMI から作成された t2.type インスタンス上のスナップショットがサポートされない	52
一貫したホストスナップショットが失敗する場合がある	52
Microrsoft Azure クラウド資産でインデックスエラーが発生することがある	52
NetBackup と Veritas CloudPoint に関する操作上の注意事項	52
Microsoft Azure の作業負荷のイメージのクリーンアップが失敗することがある	52
[認証方式 (Authentication Method)] フィールドに空白が表示された IAM ロールを持つ AWS プラグインの構成	53
MongoDB のスナップショットの作成ジョブがフリーズする場合がある	53
スナップショットの保持値がレプリカの保持値より長い場合でも、レプリカの保持値が優先されない	53
ジョブの実行中にクラウドプラグインを更新するとジョブが失敗する	54
ユーザーとパスワードの両方が更新されると権限拒否エラーが発生する	54
Google Cloud Platform の異なるソースおよびターゲットゾーンがサポートされない	55
壊れたファイルシステムが検出される	55
NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項	55
NetBackup for Microsoft SQL Server の操作上の注意事項	55
NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項	56

	データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート	56
	特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする	57
	NetBackup for NDMP の操作上の注意事項	58
	ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある	58
	NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項	58
	HPE 3PAR アレイのスナップショットのインポートが状態コード 4213 で失敗する	59
	指定した時点へのロールバック後のスナップショットの削除	59
	スナップショットからのインデックス操作でスナップショットの内容がカタログに正確に入力されない	59
	NetBackup 仮想化の操作上の注意事項	59
	NetBackup for VMware の操作上の注意事項	60
付録 A	NetBackup ユーザーの SORT について	62
	Veritas Services and Operations Readiness Tools について	62
	SORT の新規インストールのための推奨手順	63
	SORT のアップグレードのための推奨手順	68
付録 B	NetBackup のインストール要件	70
	NetBackup のインストール要件について	70
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新	72
	NetBackup 8.3 のバイナリサイズ	74
付録 C	NetBackup の互換性の要件	78
	NetBackup の互換性リストと情報について	78
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて	79
付録 D	他の NetBackup マニュアルおよび関連マニュアル	81
	NetBackup の関連マニュアルについて	81

NetBackup 8.3 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 8.3 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

NetBackup 8.3 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.11 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

EEB およびリリース内容について

NetBackup 8.3 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正の一部は、お客様固有の問題に関連します。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 8.3 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『』にあります。

p.62 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup

Appliance 3.1 は NetBackup 8.1 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html

NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の揭示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。NetBackup に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 8.3 の新機能、変更点、および拡張機能](#)

NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup](#) の互換性リストに文書化されます。

メモ: 『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、Veritas によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

p.9 の「[NetBackup 8.3 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.78 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 8.3 の新機能、変更点、および拡張機能

NetBackup 8.3 の新機能、変更点、および機能強化は、以下のカテゴリ別にグループ化されます。トピックに関する詳細情報をお読みになるにはリンクを選択します。

新機能

- 「NetBackup による WORM ストレージデバイスへのデータの不変性と削除不可性の提供」
- 「データベースの機能強化による CPU 負荷の削減」
- 「PureDisk および NetBackup Deduplication Appliance 用の OpsCenter データコレクタのサポートを終了」
- 「OpsCenter 8.3 による動的ビューの提供」
- 「OpsCenter Web UI を使用した OpsCenter のパフォーマンスチューニングの監視」
- 「ユニバーサル共有サポートの機能強化」
- 「RBAC の機能強化」
- 「NetBackup Web UI でのストレージサーバーの構成」
- 「Veritas SaaS Backup サイトへの新しいリンクを NetBackup Web UI に追加」
- 「NetBackup Web UI に追加された通知アイコン」
- 「NetBackup Web UI でのポリシー管理について」
- 「NetBackup Web UI でのシングルサインオンのサポート」
- 「NetBackup Web UI に追加された構成設定」
- 「NetBackup Web UI を使用したオンプレミスの場所からクラウドへのイメージの共有」
- 「NetBackup Web UI を介したシステムログへの監査イベントのエクスポート」
- 「NetBackup マスターサーバーとメディアサーバーの CALLHOME_PROXY_SERVER オプション」
- 「NetBackup 8.3 の RESTful API」

安全な通信の機能、変更点、および拡張機能

- 「2048 ビット以上のキー強度を持つ CA への NetBackup CA 移行について」
- 「外部の Key Management Service (KMS) サーバーのサポート」

■ **メモ:** NetBackup 8.3 をインストールまたは 8.1 より前のリリースからアップグレードする前に、『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』を必ずお読みになり、内容をご確認ください。NetBackup 8.1 には、NetBackup コンポーネントの安全な通信を向上させる多くの拡張機能が含まれています。『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』というドキュメントでは、次の拡張機能の特徴と利点を説明しています。

[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)

サポートの変更点と拡張機能

- 「NetBackup 8.3 のサポートの追加および変更点」
- 「Linux と Windows でサポートされる個別リストアの拡張属性とファイル形式」
- 「NetBackup 8.3 ライセンスの機能拡張」
- 「nbdeployutil ユーティリティのパフォーマンス向上」
- 「NetBackup 8.3 とともに使用する新しい SuSE Linux コンパイラ」
- 「Linux メディアサーバーの永続的なロボットパスのサポート」
- 「将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド」

インストール、アップグレード、および構成の変更点と拡張機能

- 「任意の btrfs ファイルシステムから NetBackup データベースへの移行」
- 「Java GUI と JRE のオプションインストール」
- 「ユーザーセッションのデフォルト値の変更」

クラウド関連の変更点と拡張機能

- 「インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するか、NetBackup 8.3 にアップグレードする」
- 「クラウド資産用の変換を必要とする新しい資産サービス API」
- 「MSDP クラウドを使用したクラウドへの重複排除データのアップロードについて」
- 「NetBackup Web UI からの CloudPoint の利用」
- 「Nutanix Files のファイル共有のサポート」

仮想化の変更点と拡張機能

- 「NetBackup Web UI からの RHV 作業負荷の更新」
- 「VMware と RHV の資産の移行が必要なデータベース変更」
- 「VMware インスタントアクセス用の RHEL での独自の (BYO) サポートの構築」
- 「NetBackup インストールへの、Hypervisor ポリシー用の Nutanix Acropolis Hypervisor (AHV) プラグインの追加」

データベースエージェントの変更点と拡張機能

- 「Microsoft SQL Server エージェントの機能強化および変更」
- 「Microsoft SQL Server インスタントアクセスのサポート」
- 「Microsoft SQL Server ストリームハンドラの導入」

- 「Microsoft SQL のスタンドアロンおよび可用性グループ (AG) データベースのサポート」
- 「NetBackup for Oracle の拡張機能」
- 「Oracle ストリームハンドラの導入」
- 「NetBackup のインストールへの MongoDB プラグインの追加」

その他の通知事項

- 「レガシーログフォルダ構造の変更」
- 「ベアメタルリストアの機能強化」
- 「MSDP マルチドメインサポートの追加」
- 「Veritas Resiliency Platform と NetBackup の統合」
- 「NAS の作業負荷の機能強化」

NetBackup による WORM ストレージデバイスへのデータの不変性と削除不可性の提供

NetBackup 8.3 は、データが破損しないように WORM (Write Once Read Many) ストレージデバイスにバックアップを書き込む機能を提供します。また、ストレージベンダーが提供する拡張オプションを利用して、該当する法令ごとにバックアップデータを保護できます。

NetBackup は、データが WORM プロパティを使用して暗号化、変更、削除されないように保護します。

- 変更不可性
この保護により、バックアップイメージが読み取り専用になり、バックアップ後に変更、破損または暗号化されなくなります。
- 削除不可性
このプロパティは、バックアップイメージが期限切れになる前に削除されないように保護します。データは悪意のある削除から保護されます。

詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』の「NetBackup でのデータの変更不可と削除不可の設定」および『NetBackup Deduplication ガイド』の「変更不可および削除不可のデータの NetBackup Deduplication WORM ストレージサポートについて」を参照してください。

データベースの機能強化による CPU 負荷の削減

このリリースの NetBackup では、NetBackup のデータストア (マスターサーバーで実行される SAP SQL Adaptive Server Anywhere (ASA) リレーショナルデータベース) の CPU 負荷を大幅に軽減する改善が加えられています。このリリースの NetBackup では、

NetBackup のプライマリデータストア (マスターサーバーで実行される SAP SQL Adaptive Server Anywhere (ASA) リレーショナルデータベース) の CPU 負荷を大幅に軽減する改善が加えられています。

これらの機能強化により、次の方法でデータベースの負荷が軽減されます。

- bpdbm と nbemm で特定の問い合わせを最適化する。
- bpjobd に、より詳細な情報をキャッシュする。
- よくアクセスされるテーブルのメモリ内コピーを保持する。
- マスターサーバー上の NetBackup リレーショナルデータベースから Resource Broker (RB) および Media and Device Selection (MDS) テーブルを移動する。

/usr/opensv/netbackup/db ディレクトリに、rb.db (Resource Broker) および mds.db (Media and Device Selection) という 2 つの新しいファイルが配置されています。

PureDisk および NetBackup Deduplication Appliance 用の OpsCenter データコレクタのサポートを終了

NetBackup OpsCenter 8.3 以降、「Veritas NetBackup PureDisk」と「Veritas NetBackup Deduplication Appliance」製品からデータを収集するためのデータコレクタ ([設定 (Settings)], [構成 (Configuration)], [エージェント (Agent)], [Integrated Agent]), [データコレクタの作成/編集/削除 (Create/Edit/Delete Data Collector)] は、サポートされなくなりました。

「Veritas NetBackup PureDisk」と「Veritas NetBackup Deduplication Appliance」用のデータコレクタを構成している場合、Veritas は、これらのデータコレクタと、ポリシー、ジョブ、アプライアンスハードウェアなど、これらのデータコレクタで以前に収集されたデータを手動で削除することを強く推奨します。「Veritas NetBackup Deduplication Appliance」用に収集されたアプライアンスハードウェアデータは、[監視 (Monitor)], [アプライアンスハードウェア (Appliance Hardware)], [重複排除 (Deduplication)] の順にクリックして確認できます。

以前のバージョンのこれらの製品から収集されたデータは、アップグレード時には削除されません。これらのデータコレクタの OpsCenter エージェント構成の UI 画面に、該当製品のサポート廃止が視覚的に示されるようになりました。これらの視覚表示は主に、今後の OpsCenter リリースでは「Integrated Agent」([設定 (Settings)], [構成 (Configuration)], [エージェント (Agent)], [Integrated Agent]) 全体が OpsCenter から削除されるため、これらのデータコレクタを手動で削除するように通知することが目的です。

また、Veritas は、[エージェントとサーバー間の通信の切断 (Agent Server Communication Break)] と [アプライアンスハードウェアの障害 (Appliance Hardware Failure)] (「Veritas NetBackup Deduplication Appliance」で構成した場合) 用に作成されたアラートポリシーを削除して、このアラートポリシーに対して以前に生成されたすべてのアラートをクリアすることを推奨します。

OpsCenter 8.3 による動的ビューの提供

OpsCenter のビューは、階層的な方法で編成される IT 資産 (マスターサーバーまたはクライアント) の論理グループです。ビューにオブジェクトを手動で追加できます。そのようなビューは静的ビューと呼ばれます。

OpsCenter 8.3 では、フィルタを作成してビューに関連付けることによって動的ビューを設定することもできます。動的ビューは、フィルタ基準と一致するオブジェクトが追加または削除されたときに自動的に更新されます。OpsCenter View Builder では、動的ビューはサポートされていません。

詳しくは、『[NetBackup OpsCenter 管理者ガイド](#)』を参照してください。

OpsCenter Web UI を使用した OpsCenter のパフォーマンスチューニングの監視

OpsCenter に NetBackup マスターサーバーを追加するにつれてデータベースのサイズが急速に増加します。したがって、最適な OpsCenter のパフォーマンスを得るには、データベースのキャッシュメモリ、サーバーと GUI のヒープメモリ、その状態を監視することが非常に重要です。OpsCenter のチューニング機能を使用して、OpsCenter メモリとチューニングの状態を監視できます。

OpsCenter のチューニングの状態を監視するには、次のようにします。

1. OpsCenter コンソールで、[設定 (Settings)]、[OpsCenter のチューニング (OpsCenter Tuning)] の順にクリックします。

詳しくは、『[NetBackup OpsCenter 管理者ガイド](#)』を参照してください。

ユニバーサル共有サポートの機能強化

ユニバーサル共有のサポートに対する次の拡張が、NetBackup 8.3 で新しく追加されました。

- 専用のユニバーサル共有ポリシー - 新しいユニバーサル共有ポリシー形式を使用すると、ユニバーサル共有の保護ポイントの構成がより簡単になります。
- Web UI での一元化された構成のサポート - ユニバーサル共有の構成と管理を、NetBackup Web UI から実行できるようになりました。ユニバーサル共有を管理するために、2 つの異なるインターフェースにアクセスする必要がなくなりました。詳しくは、『[NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド](#)』の「ユニバーサル共有の作成」を参照してください。
- クォータ - この機能により、NetBackup 管理者は、個々の共有に取り込んでいるデータの量を制限できます。この方法で、MSDP 内のストレージの容量を保護および管理できます。クォータ限度は、共有に取り込まれるストレージのフロントエンド TB の測定に基づいています。

- ソフトウェアのみの NetBackup 配備のサポート - ユニバーサル共有は、NetBackup ソフトウェアのみ (Build Your Own, BYO) の配備シナリオで完全にサポートされません。
- AD (Active Directory) 統合 - ユニバーサル共有へのユーザーアクセスは、Active Directory の権限を使って管理できます。
- HA (High Availability) アプライアンス - ユニバーサル共有は、NetBackup アプライアンスの HA オプションを使用して完全にサポートされるようになりました。HA 構成でノードに障害が発生した場合、ユニバーサル共有は残っているノードに自動的にフェールオーバーします。
- スケーラビリティの拡張 - ユニバーサル共有は、1 つの共有につき最大 5 百万ファイルをサポートするようになりました。すでに高速な保護ポイントのパフォーマンスも向上しています。
- 新しい API - ユニバーサル共有の保護ポイントをプロビジョニングするための API に加えて、ユニバーサル共有ポリシーをリモートで開始できるようにする新しい API があります。これは、データベースのダンプスクリプトの一部として、保護ポイントをスクリプト化するデータベース管理者に特に役立ちます。SORT またはマスターサーバーの https://<master_server>/api-docs/index.html にある『NetBackup 8.3 API リファレンスマニュアル』を参照してください。

詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』の「ユニバーサル共有について」を参照してください。

RBAC の機能強化

NetBackup 8.3 で、役割に基づくアクセス制御 (RBAC) を使用することで、より詳細な権限、強化された柔軟性、および優れた制御性が得られます。RBAC の設計はアクセス制御リスト (ACL) に基づいており、ANSI INCITS 359-2004 標準に忠実に従います。RBAC の適用に関する以前の設計は本質的に動的でしたが、新しい RBAC はその構成において静的です。

デフォルトでは、「管理者」の役割だけが作成されます。この役割は、RBAC のすべての権限を持ちます。「管理者」は、作業負荷管理者やバックアップ管理者などのカスタムの役割を構成するために、NetBackup Web UI にサインインする必要があります。

NetBackup 8.3 での次のような RBAC の機能強化に注意してください。

- インストールでは、NetBackup 8.3 より前の RBAC のプリンシパル、役割、オブジェクトグループが確認されます。
- 既存の API キーユーザーを、新しい RBAC の役割に割り当てる必要があります。
- バックアップ管理者の役割を移行し、古い RBAC セキュリティ管理者の役割を持つユーザーに新しいセキュリティ管理者の役割を作成するためのツールが利用可能です。その他の役割は手動で再構成する必要があります。

RBAC ツールに関する詳しい情報を参照できます。

- RBAC の役割ユーティリティ。NetBackup 8.3 で導入された新しい RBAC 機能についての最新の役割の定義を提供します。
https://www.veritas.com/support/en_US/article.100047660
- ユーザー移行ツール。オプションには、バックアップ管理者の役割を変換し、新しいセキュリティ管理者の役割を作成して、8.3 より前のセキュリティ管理者の役割を持つ任意のユーザーを再度追加する機能が含まれています。
https://www.veritas.com/support/en_US/article.100047577

NetBackup Web UI でのストレージサーバーの構成

NetBackup Web UI では、ストレージサーバー、ディスクプール、ストレージユニット、ユニバーサル共有を構成できます。構成に利用可能なストレージサーバーの種類は、AdvancedDisk、クラウドストレージ、MSDP、OpenStorage です。

詳しくは、『NetBackup 8.3 Web UI 管理者ガイド』を参照してください。

Veritas SaaS Backup サイトへの新しいリンクを NetBackup Web UI に追加

NetBackup Web UI に [Veritas SaaS Backup](#) サイトへのリンクが含まれるようになりました。NetBackup Web UI の左側のナビゲーションで、[Veritas SaaS Backup]を選択すると、このバックアップとリカバリの SaaS (Software-as-a-Service) についての情報が表示されます。

NetBackup Web UI に追加された通知アイコン

重要なシステムイベントを認識するため、NetBackup Web UI の右上に[通知 (Notifications)]アイコンが配置されるようになりました。アイコンに表示される数字は、未読メッセージの数を示しています。

アイコンをクリックすると、[通知 (Notifications)]ウィンドウが開き、最新の通知のリストが一度に 10 件ずつ表示されます。このウィンドウでは、すべての通知の包括的なリストを表示することもできます。この包括的なリストは、ソート、フィルタ処理、検索が可能です。また、特定の通知を選択して、詳細情報 (詳しい説明、該当する拡張属性など)を確認することもできます。

メモ: これらの通知にはジョブイベントは含まれません。ジョブイベントについては、アクティビティモニターのジョブの詳細を参照してください。

通知について詳しくは、次のガイドを参照してください。

[NetBackup Web UI バックアップ管理者ガイド](#)

NetBackup Web UI でのポリシー管理について

NetBackup Web UI は保護計画を使用して、NetBackup 環境内の資産を保護します。従来のポリシーを管理するには、NetBackup 管理コンソールを使用する必要があります。ただし、一部のポリシー形式は、NetBackup Web UI でも管理できます。

- MS-Windows
- 標準 (Standard)
- Oracle
- MS-SQL-Server

これらのポリシーについて詳しくは、次のガイドを参照してください。

『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』

『[NetBackup for Oracle 管理者ガイド](#)』

『[NetBackup for Microsoft SQL Server 管理者ガイド](#)』

NetBackup Web UI でのシングルサインオンのサポート

このリリースの NetBackup では、ユーザーはシングルサインオン (SSO) を使って NetBackup Web UI にサインインできます。

- SSO を使用するには、環境で SAML 2.0 に準拠した ID プロバイダが構成されている必要があります。
- 各マスターサーバードメインでは、1 つの AD または LDAP ドメインのみサポートされます。この機能は、ローカルドメインユーザーには利用できません。
- IDP の構成には、NetBackup API または NetBackup コマンド `nbidpcmd` が必要です。

詳しくは、『[NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup Web UI に追加された構成設定

NetBackup Web UI で次の設定を構成できるようになりました。

- ユーザーセッション設定。これらの設定には、セッションのアイドルタイムアウト、最大同時セッション数、ユーザーアカウントロックアウト、サインインバナーの構成が含まれます。
- 信頼できるマスターサーバー。

詳しくは、『[NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup Web UI を使用したオンプレミスの場所からクラウドへのイメージの共有

NetBackup 8.3 以降、NetBackup Web UI を使用して、オンプレミスの場所からクラウドにイメージを共有できます。必要に応じてイメージ共有サーバーを設定し、そのサーバーにイメージを共有できます。

以前は自動ディザスタリカバリと呼ばれていたこの機能を、NetBackup Web UI から利用できるようになりました。

詳しくは、『[NetBackup Web UI 管理者ガイド](#)』および『[NetBackup Deduplication ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup Web UI を介したシステムログへの監査イベントのエクスポート

システムログに NetBackup 監査イベントをエクスポートし、システムログで表示できるようになりました。たとえば、Windows システムでは、Windows イベントビューアを使用して、エクスポートした NetBackup 監査イベントを表示します。すべてまたは選択した監査カテゴリのイベントをシステムログにエクスポートできます。NetBackup Web UI の[セキュリティ (Security)]、[セキュリティイベント (Security events)]の下にある[監査イベント設定 (Audit event settings)]オプションを使用します。

詳しくは、『[NetBackup Web UI 管理者ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup マスターサーバーとメディアサーバーの CALLHOME_PROXY_SERVER オプション

Veritas では、NetBackup のマスターサーバーとメディアサーバーの CALLHOME_PROXY_SERVER オプションが導入されています。このオプションでは、Smart Meter のデータを Veritas に中継するために NetBackup が使用する、認証されていないプロキシサーバーを指定できます。この時点で、NetBackup には、値が正しく設定されているかどうかを検証する方法はありません。

この新しいオプションに関する詳細情報を参照できます。『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』および [Smart Meter のマニュアル](#)を参照してください。

NetBackup 8.3 の RESTful API

NetBackup 8.3 は、更新された RESTful アプリケーションプログラミングインターフェース (API) と新しい RESTful API の両方を備えています。これらの API は、ご使用の環境で NetBackup を構成および管理できる Web サービスベースのインターフェースを提供します。

NetBackup API のマニュアルは次の場所にあります。

- マスターサーバー上

API は、マスターサーバー上の YAML ファイルに格納されています。

`https://<master_server>/api-docs/index.html`

API は Swagger 形式で記述されています。この形式では、コードを確認し、API の実際の呼び出しを実行して機能をテストできます。Swagger API を使用するには、マスターサーバーと API にアクセスする適切なセキュリティ権限が必要です。

注意: ベリタスは、開発環境でのみ API をテストすることをお勧めします。Swagger ファイルから実際の API の呼び出しを実行できるため、本番環境では API をテストしないでください。

- SORT 上

NetBackup API のマニュアルは、SORT でも入手できます。

`https://sort.veritas.com/documents/doc_details/nbu/8.3/Windows%20and%20UNIX/Documentation/8.3`

[API リファレンス (API Reference)] の下を参照します。『はじめに』のマニュアルには、NetBackup API の使用に関する背景情報が記載されています。API YAML ファイルも参照できますが、実用的ではありません。SORT 上のマニュアルからは API をテストできません。

メモ: NetBackup アクセス制御 (NBAC) が有効になっている環境では、NetBackup API はサポートされません。

NetBackup 8.3 には、次の新しい、機能強化された API が含まれています。

- アクセス制御: NetBackup の役割に基づくアクセス制御構成へのアクセスを提供します。
- 資産サービス: NetBackup の資産情報へのアクセスを提供します。
- クラウドパケット: MSDP ストレージサーバーのクラウドパケットを作成して一覧表示します。
- クラウドファイルおよびフォルダのリカバリ: クラウド仮想マシンから個々のファイルとフォルダをリカバリします。
- クラウドリカバリターゲット: クラウド資産をリカバリできるターゲットを一覧表示します。
- クレデンシャル管理: NetBackup で使用されるクレデンシャルの管理を提供します。
- データの分類: システムで定義されているデータの分類を一覧表示します。
- ディスクボリューム: ディスクボリュームを更新します。
- ディスクボリュームのレプリケーションターゲット: ディスクボリュームのレプリケーションターゲットを設定する機能を提供します。

- イベントログ: NetBackup 環境のアクティビティと問題の洞察を提供します。また、イベントログメッセージと通知 API を使用して簡単に統合できるカスタム通知を可能にします。
- ホスト: 証明書の更新が保留されているホストを一覧表示します。
- ID プロバイダ: SAML を使用したシングルサインオンの認証の ID プロバイダ設定を管理します。
- Key Management Service: キーマネジメントサービスの設定へのアクセスを提供します。
- メディアサーバー: メディアサーバーを一覧表示します。
- NetBackup 認証局: NetBackup 認証局の構成へのアクセスを提供します。
- ポリシー: 既存のポリシーのコピーを作成し、ポリシーに関連付けられている一意のクライアントを一覧表示します。
- リカバリポイントサービス: 作業負荷に基づいてバックアップされたデータの情報を問い合わせます。
- セキュリティドメイン: Veritas NetBackup 認証サービス (AT) を使用して AD/LDAP ドメインを管理します。
- スナップショット管理サーバー: スナップショット管理サーバーの設定へのアクセスを提供します。
- SQL Server インスタントアクセス: SQL Server バックアップに対するインスタントアクセス機能を提供します。
- SQL Server リストア: 単一のリカバリポイントまたは完全なチェーンから SQL Server をリストアします。
- SSO ログイン: シングルサインオン (SSO) 認証方法を使用して NetBackup Web UI にログインします。
- 信頼バージョン: NetBackup 認証局の移行に基づいて信頼のバージョンを一覧表示します。
- 信頼できるマスターサーバー: 信頼できるマスターサーバーの構成へのアクセスを提供します。
- ユニバーサル共有: MSDP ストレージサーバーのユニバーサル共有ストレージを管理します。

非推奨 API

NetBackup 8.3 では、次の API は廃止されました。

- 資産 DB: 資産の DB API は資産サービス API になりました。
- 役割ベースのアクセス制御: /rbac サブコンテキストの API は /access-control サブコンテキストになりました。/rbac サブコンテキストで定義された API を使用して作成さ

れたすべての RBAC 構成データは、読み取り専用になりました。このデータは、/access-control サブコンテキストで検出された新しい API を使用して、類似のアクセス制御を作成するために利用できます。

バージョン化された API

NetBackup 8.3 では、次の API がバージョン化されました。適切なバージョンを指定すれば、これらの API の以前のバージョンも引き続きサポートされます。

- GET /admin/jobs
PolicyType 列挙は、UPPERCASE_WITH_UNDERSCORES に更新されました。
- GET /admin/jobs/{jobId}
PolicyType 列挙は、UPPERCASE_WITH_UNDERSCORES に更新されました。
- POST /config/{workloadType}/access-hosts
 無効なアクセスホストが提供されていて検証できないときのエラーコードと応答が、一般的な例外ではなく、500[クライアントのホスト名が見つかりませんでした (client hostname could not be found)]に変更されました。
- GET /config/policies
 各ポリシー名以外の情報も返され、改ページのパラメータなしで呼び出された場合はデフォルトの改ページが設定されるようになりました。
- POST
 /recovery/workloads/{workload}/scenarios/{scenarioType}/pre-recovery-check
 リカバリ前チェックに 404 が導入されました。このエラーは、無効な vmserver が要求に指定されている場合に戻されます。
- GET /security/auditlogs
 改ページ調整、フィルタ処理、ソートをサポートするようになりました。この API では、監査の詳細オブジェクトが返されるようになりました。
- GET /security/auditlogs/{auditId}
 この API では、監査の詳細オブジェクトが返されるようになりました。
- GET /security/cacert
NetBackup ホストのトラストストアに追加または削除する必要がある認証局のリストとともに最新の信頼バージョンが返されるようになりました。
- GET /security/logindetails
 改ページ調整、フィルタ処理、ソートをサポートするようになりました。この API では、監査ログインの詳細オブジェクトが返されるようになりました。
- GET /security/logindetails/{auditId}
 この API では、監査ログインの詳細オブジェクトが返されるようになりました。
- GET /storage/disk-pools

CLOUD ディスクプールのサイズに関連する属性は戻されなくなりました。フィルタパラメータで大文字と小文字が区別されるようになりました。

- POST /storage/disk-pools
CLOUD ディスクプールに必要な `kmsKeyPassphrase` を受け入れなくなりました。
- POST /storage/storage-servers
入力から KMS 属性が削除されました。
- POST /storage/storage-servers/{storageServerId}/disk-volumes
MSDP ストレージサーバー用のクラウドディスクボリュームの作成をサポートするようになりました。
- GET /storage/storage-units
CLOUD ストレージユニットのサイズに関連する属性は戻されなくなりました。
- GET /storage/storage-units/{storageUnitName}
CLOUD ストレージユニットのサイズに関連する属性は戻されなくなりました。
- PATCH /storage/storage-units/{storageUnitName}
CLOUD ストレージユニットのサイズに関連する属性は戻されなくなりました。
- GET
/storage/storage-units/{storageUnitName}/replication-relationships
応答のリソースタイプが更新されました。

メモ: 詳しくは、SORT で「[NetBackup 8.3 API Reference](#)」を参照してください。「はじめに」のセクションで、該当するバージョンのトピックと新機能のトピックを参照してください。

2048 ビット以上のキー強度を持つ CA への NetBackup CA 移行について

特定のシナリオでは、既存の NetBackup 認証局 (CA) の階層を新しいものに移行することが必要になる場合があります。NetBackup では、既存の NetBackup を、CA キー強度が 2048 ビット、4096 ビット、8192 ビット、および 16384 ビットの CA に移行できます。

NetBackup 8.3 をインストールまたはアップグレードした後、キー強度が 2048 ビットの新しいルート CA が配備されます。

NetBackup CA の移行プロセスは、次のステージで構成されます。

1. NetBackup CA の移行を開始する
2. 新しい NetBackup CA をアクティブ化する
3. NetBackup CA の移行を完了する

4. 古い NetBackup CA を廃止する

メモ: このプロセスは省略可能なクリーンアップタスクです。

NetBackup CA の移行中に NetBackup Web UI に接続する場合は、正常な通信のために Web UI に再度サインインする必要があります。

p.41 の「[CA の移行を開始した後、接続エラーが発生することがある](#)」を参照してください。

NetBackup CA の移行について詳しくは、『[NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド](#)』を参照してください。

外部の Key Management Service (KMS) サーバーのサポート

NetBackup は、外部の Key Management Service (KMS) サーバーを特定の構成でサポートします。NetBackup で外部 KMS サーバーを構成する場合は、事前に、次の前提条件と重要な注意事項を確認してください。

- 外部 KMS サーバーは、KMIP (Key Management Interoperability Protocol) をサポートしている必要があります。
- NetBackup は、KMIP バージョン 1.0、1.1、1.2、1.3、1.4、2.0 をサポートします。デフォルトでは、NetBackup は、外部 KMS がサポートするこのリストの最も高いバージョンを使用します。
- NetBackup マスターサーバーは、KMS で KMIP ポート (通常 5696) へのアウトバウンド接続を確立できる必要があります。
- 外部 KMS サーバーの対称キーは、暗号化と復号化のために使用されます。
- PEM 形式の証明書は、外部 KMS サーバーでの認証に使用されます。

外部 KMS の構成について詳しくは、『[NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup 8.3 のサポートの追加および変更点

メモ: この情報は変更されることがあります。最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、『[NetBackup マスター互換性リスト](#)』を参照してください。

NetBackup 8.3 以降では、次の製品およびサービスがサポートされるようになりました:

- プラットフォーム
 - Red Hat Linux-s390x: クライアントのみ。メディアサーバーはサポートされなくなりました。

- **SUSE Linux-s390x:** クライアントのみ。メディアサーバーはサポートされなくなりました。
- **Solaris 11.4 (x86-64) -** クライアントのみ。
- データベース
 - Microsoft SharePoint 2019
 - CentOS 6/7/8 の MongoDB 3.4、3.6、4.0
 - CentOS 7 の PSF - Hadoop 3.x
 - Red Hat Enterprise Linux 7.7 上の PSF - Hadoop HDFS 3.1.x

Linux と Windows でサポートされる個別リストアの拡張属性とファイル形式

個別リストアの次の拡張属性とファイル形式が、NetBackup でサポートされます。

サポートされている Linux 拡張属性とファイル形式

- 属性/メタデータ
 - ユーザーとグループの ID (基本 ACL)
 - ファイル/フォルダモード、権限、フラグ
 - タイムスタンプ (変更とアクセス時刻のみ)
- リストアのファイル形式
 - 通常のファイル
 - ディレクトリ
 - シンボリックリンク
 - ハードリンク
 - スパースファイル

サポートされている Windows 拡張属性とファイル形式

- 属性/メタデータ
 - 所有者、グループ、SCAL および DACL
 - ベーシック、拡張、継承された属性
 - タイムスタンプ (変更、アクセス、作成時刻)
 - 圧縮、暗号化、アーカイブ、インデックスなどの高度な属性
 - 代替データストリーム (ADS)

- リストアのファイル形式
 - 通常のファイル
 - 圧縮ファイル
 - 暗号化されたファイル
 - ディレクトリ
 - ファイルシンボリックリンク
 - ディレクトリシンボリックリンク
 - ディレクトリ接合点
 - ボリュームジャンクション
 - ハードリンク
 - スパースファイル

個別リストアの次の拡張属性とファイル形式は、NetBackup でサポートされません。

サポートされていない Linux 拡張属性とファイル形式

- 属性/メタデータ
 - 拡張 ACL
 - 拡張属性 (xattrs)
- リストアのファイル形式
 - 暗号化されたファイルまたはフォルダ
 - 名前付きパイプ (FIFO)
 - UNIX ソケット

サポートされていない Linux 拡張属性とファイル形式

- 属性/メタデータ
 - 元の DOS 名をリストアできない
 - 以前のファイルバージョンのリストア
- リストアのファイル形式
 - 特定のシステムおよびレジストリファイルまたはディレクトリ

NetBackup 8.3 ライセンスの機能拡張

NetBackup 8.3 では、次のライセンスの機能が拡張されました。

- 柔軟なライセンス体系
 - 強化された点: 仮想マシンが保護されている場合は、ポリシー形式に関係なく、仮想作業負荷として扱われます。
 - 新しいライセンスタイプの文字列: NetBackup 8.3 以降では、`NETBACKUP_PLATFORM_BASE_COMPLETE_EDITION_FLEX` を使って `nbdeployutil` ユーティリティのライセンスタイプを設定し、柔軟なライセンスの利点を有効にします。
- 柔軟なライセンス体系について詳しくは、[NetBackup](#) のライセンスガイドを参照してください。

nbdeployutil ユーティリティのパフォーマンス向上

NetBackup では `nbdeployutil` ユーティリティが強化され、このユーティリティの全体的な実行時間が短縮されています。スケジュール設定されたレポートでこの機能強化をすぐに確認するには、マスターサーバーを **NetBackup 8.3** にアップグレードする必要があります。 `nbdeployutil` ユーティリティを手動で実行している場合は、**NetBackup 8.3** にアップグレードしてから 90 日後に機能強化を確認できます。

複数のマスターサーバーを使用している環境で機能強化を確認するには、すべてのマスターサーバーをアップグレードすることをお勧めします。

`nbdeployutil` について詳しくは、『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』を参照してください。

NetBackup 8.3 とともに使用する新しい SuSE Linux コンパイラ

次のプラットフォームでは、SLES Linux 12 SP3 が使用されるようになりました。

- Linux SLES x86_64
- Linux zSeries SLES 64 ビット

メモ: OS カーネルが 4.4.73 より古い場合、NetBackup 8.3 はこれらのシステムにインストールできません。クライアントの名前は `SuSE4.4.73` と `IBMzSeriesSuSE4.4.73` となりました。

Linux メディアサーバーの永続的なロボットパスのサポート

NetBackup 8.3 では、Linux メディアサーバー用に永続的なロボットパスを構成できるようになりました。

この機能を有効にするには、[Veritas サポートダウンロードセンター](#) から Linux ルールファイルをダウンロードします。ダウンロードしたルールファイルが指定したディレクトリにインストールされている場合、NetBackup は、SAN 割り込みを超えて保持される

/dev/tape/by-path タイプのパスを使用します。このルールファイルがない場合、NetBackup は /dev/sg タイプのパスを引き続き使用します。

将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド

NetBackup プロセスとデーモンのシャットダウン用の新しい、詳細に文書化されたコマンドが今後のリリースで提供される予定です。その時点で、次のコマンドは利用できなくなります。

- bp.kill_all
- bpdwn
- bpclusterkill

この変更に応じた計画を立ててください。新しいコマンドは、今後のリリースノートおよび『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で発表されます。

任意の btrfs ファイルシステムから NetBackup データベースへの移行

Veritas は、btrfs ファイルシステムでは NetBackup データベースのインストールまたはアップグレードをサポートしていません。NetBackup データベースが btrfs ファイルシステムに存在する場合、アップグレードを開始する前に、サポートされているファイルシステム (ext4 または xfs) にデータベースを移動します。データベースファイルは、マスターサーバーのディレクトリ /usr/opensv/db に存在します。アップグレード前のデータベースの移動について詳しくは、『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

Java GUI と JRE のオプションインストール

NetBackup 8.3 以降、Unix、Linux、Windows の各メディアサーバー、および Unix クライアントと Linux クライアントでは、Java GUI と JRE パッケージはオプションです。

以前のリリースと同様に、Java GUI および JRE パッケージは必須であるため、すべてのマスターサーバーに自動的にインストールされます。Java GUI と JRE は、Windows クライアントのデフォルトインストールの一部ではありません。Windows クライアントでこの機能が必要な場合は、Java リモート管理コンソールをインストールしてください。

ユーザーセッションのデフォルト値の変更

NetBackup 8.3 では、セキュリティを強化するために、2つのユーザーセッションパラメータのデフォルト値が変更されました。

許可される失敗サインイン試行のデフォルトの数は 5 です。以前、この値は 0 でした。

- NetBackup Web UI で、[ユーザーセッション (User sessions)]、[ユーザーアカウント設定 (User account settings)]、[サインイン試行失敗の許容回数 (Number of failed sign-in attempts allowed)]の順に移動します。

- **NetBackup 管理コンソール**で、[**NetBackup の管理 (NetBackup Management)**]、[**ホストのプロパティ (Host Properties)**]、[**マスターサーバー (Master Servers)**]、<サーバー名>、[**ユーザーアカウントの設定 (User Account Settings)**]、[**アカウントロックアウト (Account lockout)**]、[**ログイン試行失敗の許容回数 (Number of failed login attempts allowed)**]の順に移動します。

- **CLI** では、コマンドで `GUI_MAX_LOGIN_ATTEMPTS` パラメータを使用します。例:
`bpgetconfig -X GUI_MAX_LOGIN_ATTEMPTS`

アカウントロックアウト期間のデフォルト値は **15 分**です。以前は、この値は **1440 分 (24 時間)** でした。(ユーザーアカウントは、ロックアウト期間が終了すると自動的にロック解除されます)。

- **NetBackup Web UI** で、[**ユーザーセッション (User sessions)**]、[**ユーザーアカウント設定 (User account settings)**]、ロックされたアカウントで[**ロック解除 (Unlock)**]の順に移動します。

- **NetBackup 管理コンソール**で、[**NetBackup の管理 (NetBackup Management)**]、[**ホストのプロパティ (Host Properties)**]、[**マスターサーバー (Master Servers)**]、<サーバー名>、[**ユーザーアカウントの設定 (User Account Settings)**]、[**アカウントロックアウト期間 (Account lockout duration)**]の順に移動します。

- **CLI** では、コマンドで `GUI_ACCOUNT_LOCKOUT_DURATION` パラメータを使用します。
 例: `bpgetconfig -X GUI_ACCOUNT_LOCKOUT_DURATION`

デフォルトでは、これらのユーザーセッションの設定が有効になっています。これらの設定は、**NetBackup Web UI**、**NetBackup 管理コンソール**から、または `bpsetconfig` コマンドを使って無効にできます。

インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するか、NetBackup 8.3 にアップグレードする

NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合には、**NetBackup 8.3** をインストールするかまたはそのバージョンにアップグレードした直後に、**NetBackup** マスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する必要がある場合があります。**NetBackup 8.3** へのアップグレード後にクラウドプロバイダまたは関連の拡張機能がクラウド構成ファイルから利用できない場合、関連する操作は失敗します。

Veritas はリリース間にもクラウド構成ファイルへの新しいクラウドサポートを継続的に追加します。クラウド構成ファイルの更新は、クラウド構成パッケージのバージョン **2.5.4** 以降にクラウドストレージプロバイダが追加された場合にのみ必要です。バージョン **2.5.4** 以降には次のクラウドサポートが追加されていますが、**NetBackup 8.3** の最終ビルドには含まれていませんでした。

- **Hitachi Vantara CloudScale (S3)**
- **Nutanix オブジェクト (S3)**

- Orange Business Systems Flexible Engine OBS (S3)
- SandStone MOS (S3)
- Amazon (S3) リージョン:
 - アフリカ (ケープタウン)
 - アジア太平洋 (香港)
 - ヨーロッパ (ミラノ)
 - ヨーロッパ (ストックホルム)
 - 中東 (バーレーン)
- Google (S3) リージョン:
 - アジア東部 2
 - アジア北東部 2
 - Asia-South1
 - EU-North1
 - EU-West4
 - EU-West 6
 - NorthAmerica-Northeast1
 - SouthAmerica-East1
 - US-West2
- SwiftStack Object Storage (S3) バッファサイズの変更

最新のクラウド構成パッケージについては、次のテクニカルノートを参照してください。

https://www.veritas.com/content/support/en_US/downloads/update.UPD971796

クラウドストレージ構成ファイルの追加方法については、次のテクニカルノートを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100039095>

クラウド資産用の変換を必要とする新しい資産サービス API

クラウド資産のデータベースの変更により、NetBackup 8.3 マスターサーバーにアップグレードする場合は既存の資産の移行が必要になります。このプロセスは、アップグレード後に行う 1 回のみの変換です。

移行手順:

- 移行プロセスは、クラウド資産サービスプラグインの起動時に開始されます。(30 秒間の遅延あり) API 応答のヘッダーにある警告は、移行が進行中であることを示します。この警告は、**NetBackup Web UI** にも表示されます。このプロセスでは、提供されたデータが不整合または不完全になる場合があります。
- クラウド資産 10,000 件の移行に約 10 分かかります。同時に実行されているジョブがある場合、移行時間に影響する場合があります。
- 各資産も RBAC に登録されます。

移行後:

- 以前の **AssetDB API** は正しく機能しなくなります。それらを新しい資産サービス API に変換する必要があります。資産サービス API について詳しくは、**SORT** に関する **API リファレンスマニュアル**、またはマスターサーバー上の **YAML ファイル** (https://<master_server>/api-docs/index.html) を参照してください。

MSDP クラウドを使用したクラウドへの重複排除データのアップロードについて

NetBackup 8.3 は、重複排除技術を備えた新しいクラウドソリューションである **MSDP クラウド** を導入しています。データは、重複排除を使用してクラウドターゲットに直接格納されます。

1 台の **MSDP ストレージサーバー** は、ローカルストレージと複数のクラウドストレージターゲットの両方をサポートできます。**MSDP ストレージサーバー** を構成した後、そのストレージサーバーにクラウドストレージターゲットを追加すると、**MSDP ストレージサーバー** がデータをクラウドターゲットに格納できるようになります。

MSDP クラウド を構成するには、次の種類の **NetBackup メディアサーバー** を使用できます。

NetBackup ホスト	バージョン	構成情報
NetBackup アプライアンス	Veritas NetBackup Appliance	NetBackup Appliance のマニュアル
NetBackup メディアサーバー	Red Hat Enterprise Linux または CentOS の NetBackup 8.3	『 NetBackup 8.3 重複排除ガイド 』

サポートされるクラウドベンダーおよび機能について詳しくは、『[NetBackup マスター互換性リスト](#)』を参照してください。

NetBackup の設定に 1 台の **MSDP ストレージサーバー** が含まれている場合は、**MSDP ストレージサーバー** を構成し、そのストレージサーバーに別のクラウドストレージを追加します。次のシナリオでは **MSDP クラウド機能** を使うことができます。

- クラウドストレージを使用してディスクプールとストレージユニットを作成し、そのクラウドストレージにデータを直接バックアップします。
- クラウドストレージを使用してディスクプールとストレージユニットを作成します。データをローカル MSDP ストレージサーバーにバックアップしてから、最適化された重複排除を実行して、データをクラウドストレージに複製します。

構成、管理、およびトラブルシューティングについて詳しくは、『[NetBackup 8.3 重複排除ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup Web UI からの CloudPoint の利用

NetBackup 8.3 以降では、NetBackup Web UI から CloudPoint サーバーを追加できます。CloudPoint インターフェースで操作しなくても、CloudPoint を管理し、NetBackup Web UI、REST API、CLI から資産の検出を制御できます。

CloudPoint 2.x 以降からアップグレードできます。スタンドアロンの CloudPoint サーバーを使用していて、NetBackup とともに使用する場合は、CloudPoint サーバーを移行できます。詳しくは、[Veritas『NetBackup CloudPoint Install and Upgrade Guide』](#)を参照してください。

Nutanix Files のファイル共有のサポート

CloudPoint は Nutanix ストレージアレイのサポートを追加します。Nutanix Files の新しい CloudPoint プラグインを設定して、Nutanix ストレージアレイの NFS 共有を検出して保護することができます。

Nutanix Files プラグインについて詳しくは、『[Veritas NetBackup CloudPoint Install and Upgrade Guide](#)』を参照してください。

クラウド仮想マシン上のファイル、フォルダおよびボリュームの個別リストア

NetBackup では、クラウド仮想マシン上のファイルとフォルダの個別リストアを実行できます。スナップショットを作成してリストアできるだけでなく、個々のファイルとフォルダを検索してリストアすることもできます。また、仮想マシンからボリュームをリストアすることもできます。

このプロセスは個別リストアとして知られ、スナップショットの各ファイルが、単一ファイルリストアと一般的に呼ばれる 1 つの細かい単位として考慮されます。NetBackup は、インデックス処理を使用して、スナップショット内のすべてのファイルのインベントリを作成します。スナップショットから特定のファイルをリストアするには、NetBackup によってスナップショットのインデックス付けが完了している必要があります。詳しくは、『[NetBackup Web UI クラウド管理者ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup Web UI からの RHV 作業負荷の更新

NetBackup Web UI から RHV アクセスホストを設定できるようになりました。アクセスホストを使用すると、RHV 環境は NetBackup と安全に通信できます。

詳しくは、『[NetBackup Web UI RHV 管理者ガイド](#)』を参照してください。

VMware と RHV の資産の移行が必要なデータベース変更

VMware と RHV 資産のデータベースの変更により、NetBackup 8.3 マスターサーバーにアップグレードする場合は既存の資産の移行が必要になります。このプロセスは、アップグレード後に行う 1 回のみの変換です。

移行手順:

- 移行プロセスは、VMware または RHV 資産サービスプラグインの起動時に開始されます。(30 秒間の遅延あり) API 応答のヘッダーにある警告は、移行が進行中であることを示します。この警告は、NetBackup Web UI にも表示されます。このプロセスでは、提供されたデータが不整合または不完全になる場合があります。
- 資産 10,000 件の移行に約 15 分かかります。同時に実行されているジョブがある場合、移行時間に影響する場合があります。
- 各資産も RBAC に登録されます。

移行後:

- 以前の AssetDB API は正しく機能しなくなります。それらを新しい資産サービス API に変換する必要があります。資産サービス API について詳しくは、SORT に関する API リファレンスマニュアル、またはマスターサーバー上の YAML ファイル (https://<master_server>/api-docs/index.html) を参照してください。

VMware インスタントアクセス用の RHEL での独自の (BYO) サポートの構築

NetBackup は VMware インスタントアクセス BYO (Build Your Own) をサポートするようになりました。Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティングシステム上で独自の仮想マシンを構築し、VMware インスタントアクセスをサポートできます。詳しくは、次のガイドを参照してください。

[NetBackup Web UI VMware 管理者ガイド](#)

NetBackup インストールへの、Hypervisor ポリシー用の Nutanix Acropolis Hypervisor (AHV) プラグインの追加

NetBackup 8.3 を使用すると、Hypervisor ポリシー用の Nutanix Acropolis Hypervisor (AHV) プラグインが NetBackup インストールの一部としてインストールされます。

Hypervisor ポリシーは、既存のいくつかの NetBackup 機能を活用して、Hypervisor と仮想化の作業負荷を保護します。たとえば、Hypervisor の変更ブロックの追跡機能を使用する Hypervisor 用増分バックアップとアクセラレータアクセラレータがあります。

Hypervisor ポリシーは、新しいバージョンの Nutanix AHV もサポートします。

ベリタスでは、Nutanix AHV VM を保護するために、既存の BigData ポリシーを Hypervisor ポリシーに移行することをお勧めします。

- NetBackup 8.3 以降、Nutanix AHV VM を保護するために新しい BigData ポリシーは作成できません (バックアップ対象に Application_Type=Nutanix-AHV の値を含む BigData ポリシーは作成できません)。ただし、既存の BigData ポリシーはアップグレード後も機能します。
- バージョン 8.3 の後の次の NetBackup リリース以降、Nutanix AHV VM を保護するための BigData ポリシーは実行されません。

詳しくは、『[NetBackup for Nutanix AHV 管理者ガイド](#)』を参照してください。

メモ: Hadoop、HBase、および MongoDB のデータを保護するために BigData ポリシーを引き続き使用できます。

BigData ポリシーを使用してバックアップした Nutanix AHV VM のリストアはサポートされます。

Microsoft SQL Server エージェントの機能強化および変更

このリリースの NetBackup には、Microsoft SQL Server エージェントについて次の機能強化と変更が含まれています。

NetBackup Web UI を使用した、Microsoft SQL Server エージェントのサポート:

- SQL Server を保護するための従来のポリシーを構成します。
- SQL Server を保護するための保護計画を構成します。
- SQL Server のクレデンシャルを管理します。
- NetBackup Web UI での即時バックアップ ([今すぐバックアップ (Backup now)]) のサポート。
- nbsqladm コマンドは、ENABLE_NBSQLADM オプションを使用して有効または無効にすることができます。詳しくは、『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』と『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』を参照してください。
- nbsqladm コマンドの -new_host オプションと -new_instance オプションは非推奨です。インスタンスまたはホスト名を変更するには、インスタンスを削除し、-add_instance を使用してインスタンスを再度追加します。

- 失敗したバックアップを再試行すると、バックアップのために試行されたすべてのデータベースではなく、障害が発生したデータベースのバックアップのみが再試行されます。この新しい再試行動作は、インスタンス、可用性グループ、クラスタのすべてのオブジェクトに対してサポートされます。この更新は、インテリジェントポリシーにのみ適用され、パッチファイルベースのポリシーには適用されません。
- **SQL Server** インスタンス、可用性グループ、データベースの迅速かつ効率的な検出のための機能強化。

Microsoft SQL Server インスタントアクセスのサポート

NetBackup では、Microsoft SQL Server のインスタントアクセスがサポートされるようになりました。この機能は、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティングシステムの NetBackup Appliance や BYO (Build Your Own) ストレージサーバーで使用できます。詳しくは、次のガイドを参照してください。

[NetBackup Web UI Microsoft SQL Server 管理者ガイド](#)

Microsoft SQL Server ストリームハンドラの導入

NetBackup 8.3 で、Microsoft SQL Server ストリームハンドラが導入されました。Microsoft SQL Server のストリームハンドラは Microsoft SQL Server のすべてのバージョンと Azure SQL Server に適用できます。この機能を有効にするには、MS-SQL ポリシーまたは標準ポリシーを使用します。

cacontrol コマンドラインユーティリティを使用して、ポリシーごと、またはすべてのポリシーに対して Microsoft SQL Server ストリームハンドラを有効または無効にできます。

詳しくは、『[NetBackup Deduplication ガイド](#)』を参照してください。

Microsoft SQL のスタンドアロンおよび可用性グループ (AG) データベースのサポート

CloudPoint は、Microsoft SQL スタンドアロンデータベースと、SQL 可用性グループ (AG) の一部であるデータベースに対するサポートを追加します。Microsoft SQL 用の CloudPoint アプリケーションプラグインを使用して、アプリケーションインスタンスとスタンドアロンおよび AG データベースを検出して保護できます。

SQL プラグインについて詳しくは、『[Veritas NetBackup CloudPoint Install and Upgrade Guide](#)』を参照してください。

NetBackup for Oracle の拡張機能

NetBackup 8.3 には、Oracle 関連の次の拡張機能が含まれています。

- NetBackup Web UI の[Oracle]タブの[上限を指定 (Specify maximum limits)]セクションで、実行したすべての Oracle バックアップについて[セクションサイズ (Section size)]を指定できます。このパラメータにより、RMAN のマルチセクションバックアップが有効になります。
- Oracle のインスタンスまたはインスタンスグループを登録する必要がある場合は、クレンジャルのオプションとして Oracle ウォレットを使用できます。
- NetBackup 8.3 は、NetBackup Web UI で Oracle ポリシーを設定する際、Oracle Real Application Clusters (RAC) を完全にサポートします。ただし、NetBackup 管理コンソールでは、Oracle RAC ポリシーの設定はサポートされません。
 『NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド』には、Oracle RAC を追加する手順が記載されています。
 『NetBackup for Oracle Administrator's Guide』には、Web UI でのポリシー作成に適用される、Oracle RAC ポリシーを作成するためのすべての情報が含まれています。付録 A および付録 B のすべての設定情報は、NetBackup 8.3 で非推奨になったことに注意してください。次の NetBackup メンテナンスリリースでは、これらの付録に記載されているセットアップのサポートが削除されています。すべての OIP ユーザーは、Web UI の Oracle RAC 機能を使用して、RAC の設定を保護する必要があります。
- NetBackup Web UI には、バックアップ中に RAC データベースの負荷を分散する機能もあります。『NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド』には、負荷分散の情報が含まれています。

Oracle ストリームハンドラの導入

NetBackup 8.3 は、Oracle ストリームハンドラを導入しました。Oracle ストリームハンドラは、NetBackup 8.3 へのアップグレード後に、新しく作成された Oracle ポリシーに対してデフォルトで有効になります。デフォルトでは、Oracle ストリームハンドラはストリームベースのバックアップのみをサポートします。cacontrol コマンドラインユーティリティを使用して、ポリシーごと、またはすべてのポリシーに対して Oracle ストリームハンドラを有効または無効にできます。

Oracle ストリームハンドラを使うと、変数 FILESPERSET の柔軟性が向上します。重複排除率を大幅に低下させることなく、ポリシーまたは bp.conf に FILESPERSET > 1 を設定できます。

詳しくは、『NetBackup Deduplication ガイド』および『NetBackup for Oracle 管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup のインストールへの MongoDB プラグインの追加

NetBackup 8.3 で、MongoDB プラグインは NetBackup のインストール時にインストールされます。MongoDB のデータを保護するには、MongoDB プラグインを使用します。

詳しくは、『NetBackup MongoDB 管理者ガイド』を参照してください。

レガシーログフォルダ構造の変更

root 以外または管理者以外で起動したプロセスのログについて、レガシーログフォルダ構造が変更されました。新しいフォルダ構造は、プロセスログディレクトリ名の下に作成されます。詳しくは、『Veritas NetBackup ログリファレンスガイド』のレガシーログのファイル名形式に関するセクションを参照してください。

詳細情報を参照できます。

p.41 の「Windows で NetBackup 8.3 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す」を参照してください。

ベアメタルリストアの機能強化

NetBackup 8.3 には、NetBackup ベアメタルリストア (BMR) の次の拡張機能が含まれています。

- BusyBox TPIP コンポーネントは、3PPCD の 1.24.1 から 1.31.1 にアップグレードされます。次のリンクを使用して、最新の 3.0 バージョンの 3PPCD をダウンロードすることをお勧めします。
https://www.veritas.com/content/support/en_US/downloads/update.UPD238422
- NetBackup BMR の構成は、オペレーティングシステムとパッチリリースに基づいてサポートされます。BMR の構成でサポートされているオペレーティングシステムとパッチレベルについて詳しくは、次を参照してください。
https://www.veritas.com/content/support/en_US/article.100039356
- 次の BMR ブートサーバーとクライアントのバージョンは、LDM と LPAR でサポートされます。

ハイパーバイザの種

類およびバージョン ゲスト VM バージョンの OS のバージョン

Solaris LDM 11.3 Solaris SPARC 10.11, 11.0, 11.1, 11.2, および 11.3

AIX LPAR 7.2 AIX 6.1, 7.1, および 7.2

MSDP マルチドメインサポートの追加

以前のバージョンでは、NetBackup メディアサーバーとクライアントは他の NetBackup ドメインから MSDP ストレージサーバーを直接使用できません。たとえば、他の NetBackup ドメインの NetBackup メディアサーバーまたはクライアントは、MSDP ストレージサーバーにデータをバックアップできません。

NetBackup 8.3 以降では、MSDP マルチドメインサポートを使用して、1 つの NetBackup ドメインが別の NetBackup ドメインのストレージサーバーを直接使用できます。

構成、管理、およびトラブルシューティングについて詳しくは、『[NetBackup 8.3 重複排除ガイド](#)』を参照してください。

Veritas Resiliency Platform と NetBackup の統合

NetBackup と Veritas Resiliency Platform を統合して、ディザスタリカバリ操作を管理できます。Veritas Resiliency Platform で提供される 1 つのコンソールから、プライベート、パブリック、ハイブリッドクラウドにわたるビジネスの稼働時間をプロアクティブに保守できます。NetBackup と Resiliency Platform を統合すると、データセンター内の仮想マシンのすべての回復操作で、完全な自動化、DR 固有の情報の視覚化および監視などの機能を利用できます。Resiliency Platform の追加、編集、削除、更新を行うことができます。複数の Resiliency Platform を NetBackup に追加できます。詳しくは、『[NetBackup Web UI 管理者ガイド](#)』を参照してください。

NAS の作業負荷の機能強化

- **NAS 作業負荷の動的データストリーミング**
複数の動的データストリームを使用してボリュームがバックアップされる、NAS ボリュームのオフホストバックアップを実行できます。動的ストリーミングは、NetBackup クライアントフレームワーク上に構築され、スナップショットとバックアップの統合に NAS データ保護ポリシー形式を使用します。
- **新しい NAS データ保護ポリシーの導入**
NAS データ保護ポリシーは、ポリシーストレージ、スナップショット、スナップショットからのバックアップ (プライマリ操作およびセカンダリ操作として) のストレージライフサイクルポリシーをサポートします。
- **バックアップホストプールを使用した動的データストリーミングの構成**
バックアップホストプールは、バックアップに使用できるマスターサーバー、メディアサーバーまたはクライアントサーバーのグループです。バックアップホストプールを使用した動的データストリーム機能は、Linux および Windows のマスターサーバーおよびメディアサーバーでのみサポートされます。

これらの機能強化について詳しくは、『[NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド](#)』を参照してください。

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 8.3 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウドの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup と Veritas CloudPoint に関する操作上の注意事項](#)
- [NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)
- [NetBackup for NDMP の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 仮想化の操作上の注意事項](#)

NetBackup 8.3 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたはベリタスのサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。NetBackup の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。

[NetBackup のリリースノート](#)、[管理者ガイド](#)、[インストールガイド](#)、[トラブルシューティングガイド](#)、[スタートガイド](#)、[ソリューションガイド](#)

NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 8.3 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

CA の移行を開始した後、接続エラーが発生することがある

NetBackup は、キー強度が 2048 ビット、4096 ビット、8192 ビット、および 16384 ビットの認証局をサポートするようになりました。NetBackup 8.3 をインストールまたはアップグレードした後、デフォルトでは、キー強度が 2048 ビットの新しいルート CA が配備されます。

NetBackup CA の移行中に NetBackup Web UI に接続する場合は、正常な通信のために Web UI に再度サインインする必要があります。

Windows で NetBackup 8.3 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す

root 以外または管理者以外で起動したプロセスのログについて、レガシーログフォルダ構造が変更されました。新しいフォルダ構造は、プロセスログディレクトリ名の下に作成されます。詳しくは、『[Veritas NetBackup ログリファレンスガイド](#)』のレガシーログのファイル名形式に関するセクションを参照してください。

Windows の場合、NetBackup 8.3 へのアップグレードが失敗してロールバックが発生した場合は、次のコマンドを実行して、以前のバージョンの NetBackup での作業を続行します。

```
mklogdir.bat -fixFolderPerm
```

詳しくは、『[Veritas NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』の mklogdir コマンドを参照してください。

ネイティブインストールの要件

NetBackup 8.2 で初期インストールが変更され、現在は応答ファイルが必要です。この変更は、ネイティブパッケージを使用して VM テンプレートを作成する、または製品を構成せずに NetBackup パッケージをインストールする必要があるユーザーに悪影響を及ぼす場合があります。Linux では、以前の動作を実現する方法の 1 つとして、RPM パッケージマネージャの `--noscripts` オプションを使用できます。VRTSnbpcck パッケージのインストール時にこのオプションを指定すると、構成の手順を回避できます。このオプションは、その他のパッケージをインストールする場合に指定する必要はありません。この場合でも応答ファイルは存在する必要がありますが、指定する必要がある値は、マシンのロール (クライアントまたはメディアサーバーのいずれか) のみです。次に例を示します。

```
echo "MACHINE_ROLE=CLIENT" > /tmp/NBInstallAnswer.conf
rpm -U --noscripts VRTSnbpcck.rpm
rpm -U VRTSspbx.rpm VRTSnbclt.rpm VRTSpddea.rpm
```

NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある

NetBackup 8.0 以降では、すべての NetBackup サーバー名に RFC 1123 (「Requirements for Internet Hosts - Application and Support」) と RFC 952 (「DOD Internet Host Table Specification」) の規格に準拠したホスト名を使用する必要があります。これらの規格には、ホスト名に使用できる文字と使用できない文字が規定されています。たとえば、ホスト名にアンダースコア文字 (`_`) は使用できません。

これらの規格とこの問題に関して詳しくは、次の資料を参照してください。

[RFC 952](#)

[RFC 1123](#)

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125019

インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールしないでください

インストール DVD をディスクドライブに挿入すると、オペレーティングシステムのユーザーインターフェースウィンドウ (Solaris の [ファイルマネージャ] など) が開く場合があります。このウィンドウを使用して NetBackup 製品をインストールしないことを Veritas が推奨します。このウィンドウを使用すると、予測できない結果が生じる可能性があります。

『NetBackup インストールガイド』に記載されているインストール手順に必ず従ってください。

HP-UX ItaniumのvPars SRPのコンテナのサポートについて

Hewlett Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall とswremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall とswremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが中止されます。グローバルコンテナにインストールすると、グローバルビューにのみインストールするためにパラメータがすべての swremove とswinstall コマンドに追加されます。

NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 8.3 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

BigData ポリシーを使用する作業負荷のバックアップが失敗する

BigData ポリシーを使用する作業負荷を保護するためのバックアップホストとして NetBackup クライアントが存在し、このバックアップホストが 2 つのマスターサーバー間で共有される場合、バックアップは失敗します。

バックアップ中に NetBackup クライアントは bp.conf ファイルをスキャンします。マスターサーバーが 2 番目の位置にある場合、バックアップが失敗し、次のエラーが表示されます。

```
(6654) Unable to retrieve the credentials for the server.
```

回避方法: bp.conf ファイルで、マスターサーバーのエントリがサーバー名の最初のエントリであることを確認します。

ストレージで WORM ロックされたままの場合でも、NetBackup カタログからイメージを期限切れにできる

イメージをすぐに期限切れにするコマンドは、イメージが WORM ロックされているかどうかを確認せず、その結果、非 WORM イメージの場合と同様に、NetBackup カタログが

らイメージを削除します。イメージがストレージで WORM ロックされたままの場合、イメージクリーンアップジョブで `error 2060069 unable to delete indelible image` が表示されます。NetBackup は、これらのイメージの削除を試行します。これは、正常に削除されるまで (たとえば、WORM の削除不可期間が経過した場合)、または `nbdelete-purge_deletion_list` を使ってクリーンアップ作業リストからイメージを削除するまで継続されます。

回避方法: 誤って NetBackup カタログから削除された場合は、このようなイメージを再インポートしてください。

非 WORM 対応のストレージから NetBackup がイメージを期限切れにしようとすると、ジョブの詳細にエラーが表示される

NetBackup は、通常、期限切れのバックアップの削除をカタログから試行し、その後ストレージ上で試行します。バックアップがカタログの有効期限を超えたストレージで WORM ロックされている場合、ストレージからデータを削除しようとすると、ジョブは部分的に成功した状態で完了します。ジョブは状態 (1) で完了し、ジョブの詳細にイメージごとのエラーコード `2060069` が報告されます。各クリーンアップサイクルでは、WORM ロックされたイメージの削除がストレージによって正常に許可されるまで、バックアップの削除が試行されます。

回避方法:

クリーンアップサイクルから WORM イメージを削除するには、必要に応じて次のいずれかの操作を実行します。

- 手動インポートを実行して、WORM イメージをカタログに再び取り込みます。
- `nbdelete -purge_deletion_list -backupid` コマンドを使用して、削除作業リストから WORM イメージバックアップ ID を削除します。このコマンドでは、これらのイメージはストレージから削除されないため、ストレージからイメージを手動で削除する必要があります。

NetBackup CA の移行またはアップグレードの開始時における NetBackup Web サーバー証明書の更新の失敗

NetBackup Web サービスのタイムアウトが原因で NetBackup CA の移行の開始が失敗した場合は、NetBackup Web サーバー証明書の更新が失敗します。

新しい CA を使用して Web サーバー証明書を更新するには

- 1 次の手順を使用して、`nbatd` サービスが正常に NetBackup CA を移行したかどうかを確認します。
 - 移行の概略の状態を確認します。状態は「開始済み」である必要があります。

- `nbseccmd -nbcamigrate -summary` コマンドを実行して、CA の移行状態を確認します。
- 必要なキーサイズの新しいキーペアが、NetBackup Web サーバーのキーストアに存在する必要があります。次の場所のキーストアを確認します。

Windows の場合:

```
<INSTALL_PATH>/var/global/vxss/tomcatcreds/nbwebsvc/.VRTSat/profile/certstore/keystore
```

UNIX の場合:

```
<INSTALL_PATH>/var/global/vxss/tomcatcreds/nbwebsvc/.VRTSat/profile/certstore/keystore
```

- 2 `nbatd` サービスが NetBackup CA を正常に移行したことを確認した後、次のコマンドを実行して NetBackup Web サーバー証明書を更新します。

```
nbseccmd -nbcamigrate -syncMigrationDB
```

リソースグループ名にピリオド (.) が含まれると Microsoft Azure のバックアップが失敗する

VM またはディスクのスナップショットの場合、ディスク名または資産リソースグループ名にピリオドが含まれていると、バックアップジョブが失敗します。

回避方法:

- リソースグループ名にピリオドが含まれている場合は、ディスクをピリオドが含まれないリソースグループに移動します。
- ディスク名にピリオドが含まれている場合は、ディスクの名前を変更します。

子ジョブが失敗した、または取り消された場合に、SLP がマルチストリームバックアップを再試行しない

マルチストリームバックアップジョブの実行中に、1 つの子ジョブが完了し、別の子ジョブが失敗するか取り消された場合、SLP (ストレージライフサイクルポリシー) はバックアップジョブを再試行しません。

回避方法:

1. `nbstlutil cancel -backupid <backup identifier>` コマンドを実行して、バックアップジョブを取り消して保留中のジョブをクリーンアップします。
2. 手動バックアップをトリガします。

異常な状況下で、SLP のコピーが誤って期限切れになる

異常な状況下で、SLP のコピーが誤って期限切れになります。

SLP の複製中、`bpduplicate` プロセスがその子 `bpdm` プロセスとの接続を失う場合があります。この場合、最初の複製の試行は失敗します。SLP 複製は障害に耐性があり、指定したすべてのコピーが作成されるまで再試行を繰り返します。複製が再試行され、すぐに完了した場合、孤立した `bpdm` プロセスは複製を期限切れにできません。

`bpdm` が、切断された `bpduplicate` 親プロセスを更新しようとする、孤立した `bpdm` プロセスは、SLP が作成を要求された複製コピーのメタデータを追加しようとします。`bpdbm` デーモンは、コピーがすでに存在すると応答し、応答の中で、孤立した `bpdm` はイメージの削除を要求します。

詳しくは、次の TechNote を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100047236

個別リストアではターゲットに十分な空き容量が必要

ターゲットのリストアファイルシステムで利用可能な領域が不足している場合、個別リストア操作は失敗します。

回避策: ターゲットのリストアファイルシステムに十分な領域があることを確認します。

デバイスツリーに表示されている古いデバイス

インデックス付けまたはリストアの処理中に、ボリューム内に存在する古いデバイスがクリーンアップされず、デバイスツリーに表示されることがあります。

回避方法:

1. デバイスをマウントしたファイルシステムをマウント解除します。(必要な場合には `force unmount` を使用)
2. いずれかのパーティションが LVM に属している場合は、`vgreduce` コマンドと `pvremove` コマンドを使用して、ディスクからボリュームグループを削除します。
3. `blockdev -flushbufs` コマンドを実行して、そのデバイスへの未解決の参照を削除します。
4. デバイスツリーからデバイス参照を削除します。たとえば、ディスク全体またはパーティションディスクの `/dev/xvdf`、`/dev/disk/by-path`、`by-id`、`by-label`、`by-partuuid`、および `by-uuid` など
5. 次のコマンドを使用して、`sysfs` からデバイスを削除します。
6. `echo 1 > /sys/block/device-name/device/delete`
この場合、デバイス名は `xvdf` の場合があります。
7. この問題を解決するには、ホストを再ブートします。

一時デバイスがファイルシステム資産として一覧表示される

検出プロセスとリストア処理が同時に実行されている場合、リストア処理の間に、一時デバイスが検出され、ファイルシステム資産として表示されることがあります。リストア処理が完了すると、一時デバイスはその後の検出時にファイルシステム資産として表示されなくなります。

IPv6 アドレスをクライアント名またはイメージ名として使う場合の NetBackup の制限事項

NetBackup の次の制限事項は、IPv6 アドレスがクライアント名またはイメージ名として使われている場合に当てはまる場合があります。

- ポリシーでクライアント名として IPv6 アドレスを使っても、Windows システム上のインスタントリカバリ (IR) スナップショットでは機能しません。この場合は、バックアップに失敗する可能性があります。IPv6 アドレスの代わりにホスト名を指定してください。イメージ名は NetBackup で自動的に作成され、クライアント名とタイムスタンプの組み合わせで構成されます。クライアント名がポリシー内で IPv6 アドレスとして構成されていると、IPv6 アドレスが含まれているイメージ名が (イメージカタログに) 生成されます。この場合は、バックアップに失敗します。
- カタログでイメージ名として IPv6 アドレスを使っても、Windows システム上のインスタントリカバリ (IR) スナップショットでは機能しません。

NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、NetBackup 8.3 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースの詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Veritas のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.78 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup Web UI で推奨される 1280 x 1024 以上の画面解像度

NetBackup Web UI を使用する場合、Veritas は 1280 x 1024 以上の画面解像度を使用することをお勧めします。画面の解像度を低くすると、いくつかの Web UI 画面で既知の問題が発生します。

NetBackup Web UI ポリシーのリストに古いポリシーの詳細が一時的に表示されることがある

Web UI ポリシーのリストに、古いポリシーの詳細や、Web UI でサポートされていないオプションが一時的に表示されることがあります。この問題は、Java GUI や CLI など、Web UI 外でポリシーが作成または変更された場合に発生することがあります。Web UI と他のクライアント間の通信は、即座には行われません。ポリシーの最新の変更以降、通信プロセスには最大 1 分かかることがあります。

回避策: この問題が発生した場合は、ポリシーの最新の変更から 1 分後に Web UI ポリシーリストを更新してください。または、ポリシーの詳細ページで最新の詳細を表示できます。

NetBackup Web UI でのセキュリティイベントリストの検索の制限事項

次の NetBackup Web UI 機能では、検索機能は[ユーザー名 (User name)]フィールドと[ドメイン名 (Domain name)]フィールドに対してのみ利用可能です。

- [セキュリティ (Security)]>[セキュリティイベント (Security Events)]>[アクセス履歴 (Access History)]
- [セキュリティ (Security)]>[セキュリティイベント (Security Events)]>[監査イベント (Audit Events)]

検索機能は、これらの表のリストの[説明 (Description)]、[理由 (Reason)]、その他の列では利用できません。フィルタを使用して、特定の監査カテゴリのイベント (ログイン、ジョブ、ポリシーなど) を表示できます。

Web UI から NetBackup 管理コンソールセッションを終了するとユーザーがログアウトされない

ユーザーが NetBackup 管理コンソールにログインすると、NetBackup はセッションを作成します。NetBackup Web UI の[有効なセッション (Active sessions)]タブにそのセッションが表示され、終了できます。ただし、Web UI からそのセッションを終了すると、ユーザーは NetBackup 管理コンソールから完全にはログアウトされません。代わりに、NetBackup 管理コンソールの一部の機能が正しく動作しない可能性があります。ユーザーに「状態コード: 117。Web サービス認証に失敗しました。NetBackup 管理者コンソールに再度ログインする必要があります。(Status Code: 117. Web service authentication failed. You may have to log in to the &ProductName; Administrator Console again.)」のようなメッセージが表示される場合があります。

メモ: Veritas は、NetBackup Web UI の[有効なセッション (Active sessions)]タブからこれらのセッションを終了しないことをお勧めします。

回避方法: Web UI からのセッションが終了した場合、すべての機能を回復するには、ユーザーは再度 NetBackup 管理コンソールにログインする必要があります。

NetBackup 8.3 がサポートするアクセス制御方式

NetBackup の役割に基づくアクセス制御 (RBAC) は、Web UI と API でのみ利用可能です。NetBackup のその他のアクセス制御方法は、拡張監査 (EA) を除いて、Web UI と API ではサポートされません。EA を使用して構成されているユーザーは、Web UI と API に対する完全なアクセス権を持ちます。NetBackup アクセス制御 (NBAC) が有効な場合は、Web UI を使用できません。

詳しくは、『NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド』を参照してください。

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動は、特定の Linux プラットフォーム、特に VMware 上の Red Hat Enterprise Linux 6.0 (RHEL 6.0) で失敗する場合があります。この問題は、デフォルトの GNU C ライブラリ (glibc) と比較的新しいハードウェアでの Advanced Vector Extensions (AVX) との非互換性に起因しています。この問題は、glibc の今後のリリースで対処されます。

回避策: runInstaller を実行する前に `export LD_BIND_NOW=1` コマンドを実行します。

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

NetBackup 管理コンソールの初期化時に機能が低下する

次の問題は、ログオンダイアログで指定されているホスト上の 1 つ以上の NetBackup サービスまたはデーモンが実行されていない場合に発生します。

- 機能の低下 (たとえば、バックアップ、アーカイブ、リストアのコンポーネントのみが利用可能)
- NetBackup 管理コンソールの初期化中に[接続できません (Cannot Connect)]エラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 8.3 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup マスターサーバーを 8.3 にアップグレードした後、BMR バックアップジョブがエラーを報告することがある

NetBackup マスターサーバーを 8.3 にアップグレードした後、アップグレードは成功しますが、BMR バックアップジョブが失敗してエラーメッセージ「The NetBackup client version is incompatible with the master server」が表示される場合があります。

詳しくは、次の Veritas のサポート記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100048124>

BMR のリストアでフォーマットとボリュームの作成手順に長時間かかることがある

オペレーティングシステムの変更により、リストアするシステムに論理ボリュームがある場合、フォーマット手順の実行中に Bare Metal Restore (BMR) のリストアに長時間かかることがあります。Red Hat Enterprise Linux 8 で LVM2 の変更が導入され、それにより udev データベースのスキャンが発生します。このスキャンのため、LVM 関連の操作に長時間かかります。

BMR リストアを実行すると、bmrrest ログに次のメッセージが表示されることがあります。

```
WARNING: Device * not initialized in udev database even after waiting
10000000 microseconds.
```

リストアに長時間かかりますが、BMR のリストアは成功します。

NetBackup クラウドの操作上の注意事項

NetBackup Cloud Storage では、クラウドの STaaS (Storage as a Service) ベンダーからデータをバックアップ、リストアできます。この項では、NetBackup8.3 の NetBackup クラウドに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

RHEL 8 でクラウドリカバリホストを構成する前に

RHEL 8 でクラウドリカバリホストを構成するために `ims_system_config.py` を実行する前に、Python 2 をインストールし、Python 2 から Python へのソフトリンクを作成します。`ims_system_config.py` スクリプトでは、Python 2 が使用されます。

Gov クラウドまたは中国地域でパブリッククラウドがサポートされない

Gov クラウドまたは中国地域のクラウドを使用してパブリッククラウドの地域プラグインを設定しようとする、次のエラーが発生します。

```
Plug-in authentication failed. Credentials are invalid.
```

AWS マーケットプレース AMI から作成されたインスタンスでインデックス付けがサポートされない

AWS マーケットプレース AMI から作成されたインスタンスのインデックス付け処理は、次のエラーで失敗します。

```
Failed to attach new volume: Cannot attach volume <vol-xxx>
with Marketplace codes as the instance <i-xxx>
is not in the 'stopped' state.
```

AWS Amazon Linux AMI から作成された t2.type インスタンス上のスナップショットがサポートされない

AWS Amazon Linux AMI から作成された t2.type インスタンス上のスナップショットはサポートされません。

一貫したホストスナップショットが失敗する場合がある

次のエラーが表示され、一貫したホストのスナップショットが失敗することがあります。

```
The host level snapshot of <host_name> cannot be performed as asset hierarchy is incomplete.
```

この問題は次のいずれかの理由で発生します。

- 個別リストアは、ホスト上で最後の 10 分間に実行されています。
- 新しいディスクがホストに接続されており、必要な資産の検出が完了していません。

Micorosft Azure クラウド資産でインデックスエラーが発生することがある

Microsoft Azure クラウド資産の場合、インデックス付け操作は次のエラーで失敗することがあります。

```
No available slots to attach disk.
```

NetBackup と Veritas CloudPoint に関する操作上の注意事項

この項では、Veritas CloudPoint と NetBackup 8.3 に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Microsoft Azure の作業負荷のイメージのクリーンアップが失敗することがある

Microsoft Azure の作業負荷に対し、イメージのクリーンアップが次のエラーで失敗します。

```
30464: invalid error code .
```

回避方法: このエラーは Veritas CloudPoint に関連します。インシデント 7253 および 8030 については、[Veritas CloudPoint リリースノート](#)を参照してください。

[認証方式 (Authentication Method)]フィールドに空白が表示された IAM ロールを持つ AWS プラグインの構成

NetBackup にすでに追加された CloudPoint サーバーに IAM ロールを接続すると、NetBackup でロールが割り当てられません。

回避方法:

次のコマンドを使用して CloudPoint と NetBackup を同期する必要があります。

```
/usr/opensv/volmgr/bin/tpconfig -update -cloudpoint_server <ip/name  
which CP is registered in NBU> -cloudpoint_server_user_id admin  
-manage_workload CLOUD
```

MongoDB のスナップショットの作成ジョブがフリーズする場合がある

スナップショットの作成中に CloudPoint がファイルシステムをフリーズ解除できない場合、その後の MongoDB スナップショットはフリーズします。前回のスナップショットジョブの状態は成功になりますが、次のエラーがログに記録されます。

```
flexsnap-coordinator: "Jun 18 22:31:51 11f5b9b5977c  
flexsnap-coordinator[1] Thread-4037029 flexsnap.coordinator:  
WARNING - post_snapshot failed for child  
  
<asset_id: eg:fs-lnxnative-ext4-74d0ad4b-d81e-4819-9a68-  
bda6b3750b8e-33280449d30c2bb766721379375a11130>  
with exc <Exception details>.
```

回避方法:

次のコマンドを使用して、ファイルシステムをフリーズ解除できます。

```
fsfreeze -u <mount_point>
```

Oracle アプリケーションの場合、CloudPoint がファイルシステムのフリーズ解除に失敗すると、次のスナップショットジョブは失敗します。

スナップショットの保持値がレプリカの保持値より長い場合でも、レプリカの保持値が優先されない

Amazon AWS クラウドのスナップショットレプリカ保持は、プライマリスナップショットの保持と異なる場合は優先されません。

回避方法:

1. 次のコマンドを使用して、他のイメージ情報とともにすべてのクラウドイメージのリストを取得します。

```
<install_path>/bpimagelist -L -pt Cloud
```

特定のクライアントのイメージを取得するには、次のようにします。

```
<install_path>/bpimagelist -L -client <client_name>
```

2. 次のコマンドを使用して、レプリカコピーがあるイメージを確認します。

```
<install_path>/bpimagelist -L -pt Cloud -backupid <backup_id>
```

「コピー数」というキーワードを検索し、`number_of_copies` の値が 1 より大きい場合は、イメージにレプリカコピーがあることを意味します。

3. 各レプリカコピーの有効期限を更新するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

```
<install_path>/bpexpdate -recalculate -backupid <backup_id> -ret  
<retention_level> -copy <copy_number>
```

```
<install_path>/bpexpdate -backupid <backup_id> -d <date_in_format  
mm/dd/yy hh:mm:ss> -copy <copy_number>
```

ジョブの実行中にクラウドプラグインを更新するとジョブが失敗する

スナップショット、リストア、レプリケーションまたは任意のジョブが進行中のときに、**Azure** プラグインの構成を編集すると、ジョブは次のエラーで失敗します。

```
Request failed unexpectedly: 'AzurePlugin' object has no attribute  
'aops'.
```

回避方法: **Azure** プラグインの構成は、その構成によって管理されている資産の操作が進行中でないときにのみ更新します。

ユーザーとパスワードの両方が更新されると権限拒否エラーが発生する

標準以外のユーザーで **CloudPoint** サーバーのエージェントレス接続のクレデンシャルを更新しようとする、問題が発生することがあります。特定の **VM** で新しいユーザーを作成する場合、そのユーザーは **sudoers** ファイルの一部である必要があります。そうでない場合、接続は失敗します。新しいユーザーは、パスワードなしで `sudo` コマンドを使用して **root** 操作を実行する権限を持っている必要があります。

回避方法:

この問題を回避するには、次のようにします。

- パスワードなしの `sudo` コマンドが構成されていることを確認します。/etc/sudoers ファイルのユーザーエントリを確認します。

- バイナリ flexsnap エージェントレスおよびプラグインが、古いユーザーで作成されていないことを確認します。古いユーザーで作成された場合は、ファイルを削除します。

Google Cloud Platform の異なるソースおよびターゲットゾーンがサポートされない

Google Cloud Platform では、すべてのゾーンにわたるリストアスナップショットが許可されていますが、CloudPoint サーバーでは、リストアのソースの場所とターゲットの場所をプラグイン構成ごとに異なるゾーンに設定することはできません。この問題は、ゾーンが構成ごとに管理されていて、構成に含まれていないゾーンへのリストアはサポートされないために発生します。

回避方法:

ソースの場所とターゲットの場所が、プラグインの構成と同じゾーンにあることを確認します。

壊れたファイルシステムが検出される

リストア処理中に CloudPoint サーバーで破損したファイルシステムが検出されることがあります。この場合、スーパーブロックが無効、または構造のクリーニングが必要なエラーでマウントが失敗します。

NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなデータベースおよびアプリケーション技術を保護する方法をいくつか提供しています。このトピックでは、NetBackup 8.3 によるデータベース技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for Microsoft SQL Server の操作上の注意事項

NetBackup for SQL Server は、NetBackup for Windows の機能を拡張したもので、SQL Server データベースのバックアップおよびリストアを行います。これらの機能は、UNIX 版または Windows 版 NetBackup マスターサーバーを使用する Windows クライアント用に提供されます。このトピックでは、NetBackup 8.3 の NetBackup for Microsoft SQL Server に関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Microsoft SQL Server エージェントの注意事項と制限事項

- 資産の保護状態について、次の点に注意してください。
 - NetBackup Web UI は、従来のポリシーがインスタンスまたは可用性グループを保護しているかどうかを示しているわけではありません。NetBackup 管理コンソール

ルを使用して、インスタンスまたは可用性グループを保護するために従来のポリシーがどのように使われているかを確認します。

- 資産のバックアップイメージが存在しない場合、Web UI には「保護されていない」ことが示されます。
- データベースは、データベースのバックアップが存在する場合、データベースインスタンスに検証済みクレデンシシャルが含まれる場合、またはデータベースの手動検出が実行されている場合にのみ、NetBackup Web UI の[データベース (Databases)]タブに表示されます。
- 検出処理では 2 つのメッセージが表示されます。最初に、データベースまたは可用性グループに対する検出を開始する要求が開始されると、Web UI に「...の検出を開始しています」と表示されます。2 番目のメッセージの「...の検出を正常に開始しました」が表示されるまで、検出は開始されません。一覧を更新するには、[更新 (Refresh)]をクリックします。
- NetBackup は、クラスタ名と物理ノード名でフェールオーバークラスタインスタンス (FCI) を検出して表示します。たとえば、インスタンス FCI は、物理ノード `hostvm10` および `hostvm11` と、そのクラスタ名の `sql-fci` の両方で列挙されます。データベースは、ノード名とクラスタ名でも列挙されます。
- 読み取りスケール可用性グループのデータベースを検出して参照できるようにするには、Microsoft SQL Server Native Client バージョン 11.0.7462 ODBC ドライバ以降が可用性グループのレプリカにインストールされている必要があります。SQL Server インテリジェントポリシーからデータベースを参照する場合、NetBackup 管理コンソールで終了状態 114 を受信します。Web UI では、読み取りスケール可用性グループは検出されませんが、エラーメッセージは表示されません。

NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 8.3 の国際化、日本語化、および英語以外のロケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- Oracle:
データファイルパス、表領域名、TNS パス
- DB2:

データファイルパス、表領域名

- **SAP:**
 英語版 SAP は、ローカライズされた OS で動作します。(ローカライズされた SAP フィールドは特にありません。)
- **Exchange:**
 メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス
- **SharePoint:**
 サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト
- **Lotus Notes:**
 電子メールデータ (.nsf ファイル)
- **Enterprise Vault (EV) エージェント:**
 ボルトストア、パーティション、データ
- **VMware:**
 ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする

NetBackup の次のユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

- ホスト名 (マスターサーバー、メディアサーバー、Enterprise Media Manager (EMM) サーバー、ボリュームデータベースホスト、メディアホスト、クライアント)
- ポリシー名
- ポリシーの KEYWORD (Windows のみ)
- バックアップ、アーカイブ、およびリストアの KEYWORD (Windows のみ)
- ストレージユニット名
- ストレージユニットディスクのパス名 (Windows のみ)
- ロボット名
- デバイス名
- スケジュール名 (Schedule Name)
- メディア ID
- ボリュームグループ名 (Volume group name)

- ボリュームプール名
- メディアの説明 (Media description)
- Vault ポリシー名
- Vault レポート名
- BMR 共有リソースツリー (SRT) 名
- トークン名

NetBackup for NDMP の操作上の注意事項

NetBackup for NDMP は、NetBackup のオプション製品です。Network Data Management Protocol (NDMP) を使用して、NetBackup で Network Attached Storage (NAS) システムのバックアップおよびリストアを開始および制御できます。このトピックでは、NetBackup 8.3 の NetBackup for NDMP に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Client は NetBackup に各種のスナップショットベースの機能を提供します。ファイバーチャネルネットワーク (SAN) または従来の LAN に接続されている UNIX、Linux および Windows プラットフォームのクライアントがサポートされています。それぞれのスナップショット方式は、データが格納されるストレージサブシステムに組み込まれているスナップショットテクノロジーに依存します。この項では、NetBackup 8.3 の Snapshot Client に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

HPE 3PAR アレイのスナップショットのインポートが状態コード 4213 で失敗する

HPE 3PAR アレイのスナップショットのインポートは、状態コード 4213 で失敗します。現在、CloudPoint は VSO (仮想サーバー所有者) スナップショット方式で、「クローン」のスナップショット形式をサポートしていません。

回避策: 「COW」(コピーオンライト) のスナップショット形式を使用してポリシーを再構成してください。

指定した時点へのロールバック後のスナップショットの削除

ネットワーク接続ストレージ (NAS) の VSO FIM スナップショット方式では、古い複製から指定した時点へのロールバックを実行すると、その時点以降のスナップショットがストレージアレイから削除されます。この動作により、NetBackup イメージの一貫性がなくなるため、イメージは削除されます。

同様に、いずれかのマウントポイントから指定した時点に古いスナップショットをロールバックすると、そのマウントポイントに関連付けられているスナップショットのみが削除されます。イメージも、一貫性がなくなるため削除されます。ただし、他のマウントポイントに属する他のスナップショットはストレージアレイに残ったままであるため、手動でクリーンアップする必要があります。

スナップショットからのインデックス操作でスナップショットの内容がカタログに正確に入力されない

メモ: この問題は、オンプレミスの作業負荷と UNIX プラットフォームに固有です。

スナップショットからインデックス操作を行う場合、スナップショットのマウントホスト上で /usr/opensv ディレクトリが別のパスにリンクされていると、スナップショットの内容がカタログ内で正確にインデックス付けされません。

回避策: スナップショット操作のみが存在するようにストレージライフサイクルポリシーを再構成して、スナップショットからのインデックス操作を削除します。

NetBackup 仮想化の操作上の注意事項

NetBackup には、仮想環境を保護するためのいくつかの方法が用意されています。NetBackup は、主に VMware と Hyper-V という 2 つの仮想化技術を保護できますが、その他の仮想化技術も NetBackup によって保護できます。このトピックでは、NetBackup 8.3 による仮想化技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for VMware の操作上の注意事項

NetBackup for VMware は、VMware ESX Server 上で動作する VMware 仮想マシンのバックアップおよびリストアを実現します。また、VMware vCenter 用 NetBackup プラグイン (vCenter プラグイン) を使うと、vSphere Client で仮想マシンのバックアップを監視し、バックアップから仮想マシンをリカバリすることができます。このトピックには、NetBackup for VMware および NetBackup 8.3 の vCenter プラグインに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

自動スケジュールおよび WORM ストレージを使用すると、VMware 保護計画の作成に失敗する場合があります

次のオプションを選択すると、保護計画の作成は VMware 作業負荷に対して機能しません。

- すべてのスケジュール頻度は 1 週間未満に設定されます。
- WORM ストレージには、1 週間未満で要求された保持期間よりも長い、有効な[ロックの最大期間 (Lock Maximum Duration)]があります。

回避方法: WORM 対応ストレージで VMware を保護するために保護計画を使用する場合は、WORM ストレージの[ロックの最大期間 (Lock Maximum Duration)]を 1 週間より長く設定します。または、保護計画のスケジュール形式を明示的に選択します。

メディアサーバーが仮想化サーバーにアクセスできず、状態コード 200 で失敗する

次のシナリオを検討します。

- NetBackup で NAT クライアントのサポートが有効になっている。
- NetBackup 管理コンソールを使用して STU が作成されている。
- NetBackup Web UI を使用して VMware のバックアップの保護計画を作成する。
- 仮想化サーバーにアクセスするバックアップホストを指定する。
- VMware 資産に保護計画を割り当てる。
- サブスクリプションの一部として作成されたポリシーを確認する。
- NetBackup 管理コンソールの[VMware]タブで正しい VMware バックアップホストが表示されているが、[クライアント (Clients)]の[仮想マシンの自動選択を実行するための NetBackup ホスト (NetBackup host to perform automatic virtual machine selection)]オプションが[バックアップメディアサーバー (Backup Media Server)]に設定されている。メディアサーバーは仮想化サーバーにアクセスできず、バックアップが状態コード 200 で失敗する。

回避方法:

- 1 NetBackup 管理コンソール、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]、[ポリシー (Policies)]の順に移動します。
- 2 右ペインで、適切なポリシーを選択します。
- 3 [ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログボックスで、[クライアント (Clients)]タブを選択します。
- 4 [VMware インテリジェントポリシーの問い合わせを通じて自動的に選択 (Select automatically through VMware Intelligent Policy query)]オプションをクリックします。
- 5 [仮想マシンの自動選択を実行するための NetBackup ホスト (NetBackup host to perform automatic virtual machine selection)]ドロップダウンリストから必要なバックアップホストを選択します。
- 6 [OK]をクリックします。

NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)
- [SORT の新規インストールのための推奨手順](#)
- [SORT のアップグレードのための推奨手順](#)

Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、Veritas エンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていますかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていますかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。

- **Hotfix と EEB Release Auditor**
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。
- **カスタムレポート**
このツールを使うと、システムと Veritas エンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- **NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定**
このツールを使用すると、今後 Veritas が新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後 Veritas が置き換えることなく廃止する項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには NetBackup の特定の機能、サードパーティ製品の統合、Veritas 製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

SORT の新規インストールのための推奨手順

Veritas ベリタスは新規の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順は SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-1

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.64 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
汎用インストールレポートを作成します。	p.65 の「 汎用インストールチェックリストを作成する方法 」を参照してください。

手順	詳細
システム固有のインストールレポートを作成します。	p.66 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)」を参照してください。 p.66 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)」を参照してください。

SORT ページに Veritas Account を作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します：
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 右上で[ログイン (Login)]をクリックしてから、[今すぐ登録 (Register now)]をクリックします。
- 3 要求された次のログインおよび連絡先情報を入力します：

電子メールアドレス (Email address) 電子メールアドレスを入力し、検証してください

パスワード (Password) パスワードを入力し、検証してください

名 (First name) 名を入力してください

姓 (Last name) 姓を入力してください

会社名 (Company name) 会社名を入力してください

国 (Country) 国を入力してください

優先言語 (Preferred language) 優先言語を選択してください

CAPTCHA テキスト (CAPTCHA text) 表示される CAPTCHA テキストを入力してください。必要に応じて、イメージを更新してください。
- 4 [送信 (Submit)]をクリックします。
- 5 ログイン情報の受信時に SORT にログインしてカスタマイズした情報のアップロードを開始できます。

汎用インストールチェックリストを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:

<https://sort.veritas.com/netbackup>

- 2 [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)] ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 要求された情報を指定します

製品 (Product)

ドロップダウンメニューから適切な製品を選択してください。

NetBackup の場合は **NetBackup Enterprise Server** または **NetBackup Server** を選択してください。

インストールするまたは
アップグレード後の製品
バージョン (Product
version you are installing
or upgraded to)

NetBackup の適切なバージョンを選択してください。最新バージョンは常にリストの一番上に示されます。

プラットフォーム
(Platform)

生成するチェックリストに対応するオペレーティングシステムを選択してください。

プロセッサ (Processor)

チェックリストに対して適切なプロセッサの種類を選択してください。

アップグレード前の製品
バージョン (任意)
(Product version you are
upgrading from
(optional))

新規インストールの場合は、何も選択しないでください。アップグレードの場合は、現在インストールされている NetBackup のバージョンを選択できます。

- 4 [チェックリストの生成 (Generate Checklist)] をクリックします。
- 5 選択内容に対応するチェックリストが作成されます。この画面で選択内容を変更できます。[チェックリストの生成 (Generate Checklist)] をクリックすると、新しいチェックリストが作成されます。

結果の情報は PDF として保存できます。NetBackup では多数のオプションを利用可能で、それらの多くは生成されたチェックリストに示されます。各セクションを十分に確認して、環境に適用するかどうかを判断してください。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)] セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)] を選択します。
- 3 [データコレクタ (Data Collectors)] タブを選択します
- 4 [グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface)] のラジオボタンを選択して、プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロードが終わったら、データコレクタを起動します。
- 6 [ようこそ (Welcome)] 画面の [製品ファミリー (product family)] セクションで NetBackup を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- 7 [システムの選択 (System Selection)] 画面で、分析するすべてのコンピュータを追加します。[参照 (Browse)] をクリックすると、分析に追加可能なコンピュータのリストを確認できます。Veritas 管理者アカウントまたは root アカウントでツールを起動することをお勧めします。
- 8 すべてのシステムを選択したら、[システム名 (System names)] セクションを確認して [次へ (Next)] をクリックします。
- 9 [検証オプション (Validation Options)] 画面の [検証オプション (Validation options)] 下で、アップグレード後のバージョンを選択します。
- 10 [次へ (Next)] をクリックして続行します。
- 11 ユーティリティによって要求されたチェックが実行され、結果が表示されます。レポートをマイ SORT にアップロードできます。また結果を印刷したり保存できます。Veritas 分析を一元管理しやすくするために、結果はマイ SORT Web サイトにアップロードすることをお勧めします。[アップロード (Upload)] をクリックして、マイ SORT のログイン情報を入力すると、データがマイ SORT にアップロードされます。
- 12 終了したら、[完了 (Finish)] をクリックしてユーティリティを閉じます。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)] セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)] を選択します。

- 3 [データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。
- 4 プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。

データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロード済みのユーティリティを含むディレクトリに変更します。
- 6 実行 (Run). /sortdc

ユーティリティによって、最新バージョンのユーティリティがインストールされていることを確認するためのチェックが実行されます。さらに、ユーティリティによって、最新のデータが含まれているかどうかチェックされます。この処理の後、ユーティリティによって、このセッションのログファイルの場所がリストされます。
- 7 要求されたら、Enter キーを押して続行します。
- 8 メインメニューで[NetBackup ファミリー (NetBackup Family)]を選択します。
- 9 [何をしますか? (What task do you want to accomplish?)]というプロンプトが表示されたら、[インストールレポートのアップグレード (Installation/Upgrade report)]を選択します。

カンマで項目を区切ることで、複数のオプションを選択できます。
- 10 レポートに含めるシステムを指定します (複数可)。

指定したシステムで以前にレポートを実行していた場合は、そのレポートを再び実行するようプロンプトが表示されます。[はい (Yes)]を選択すると、レポートが再実行されます。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。
- 11 インストールまたはレポートをアップグレードする製品に関するプロンプトが表示されたら、NetBackup を指定します。
- 12 インストールする NetBackup のバージョンに対応する数字を入力します。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。
- 13 ユーティリティによって、レポートをオンラインで確認する場合には SORT Web サイトにアップロードするよう促すプロンプトが表示されます。オンラインレポートを利用すると、システム上のテキストベースのレポートよりも詳細な情報を入手できます。
- 14 タスクが完了したら、ユーティリティを終了できます。オプションでツールに関するフィードバックを提供できます。Veritas 社はフィードバックを基にツールの改良を実施しています。

SORT のアップグレードのための推奨手順

Veritas ベリタスは現在の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順はすでに NetBackup を使っているユーザーにとって SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-2

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.64 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
システム固有のアップグレードレポートを作成します。	p.66 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.66 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。
今後のプラットフォームと機能の予定を確認します。	p.68 の「 今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法 」を参照してください。
Hotfix と EEB Release Auditor の情報を確認します。	p.68 の「 Hotfix と EEB の情報を確認する方法 」を参照してください。

今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 [情報の表示 (Display Information)]を選択します。
- 4 表示される情報を確認します
- 5 任意 - サインインによる通知の作成 - [サインインによる通知の作成 (Sign in and create notification)]をクリックします。

Hotfix と EEB の情報を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup Hotfix と EEB Release Auditor (NetBackup Hot Fix and EEB Release Auditor)]ウィジェットを見つけて選択します。

- 3 Hotfix または緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) の情報を入力します。
- 4 [検索 (Search)] をクリックします。
- 5 新しいページに、以下の列が含まれた表が表示されます。

EEB 識別子の Hotfix (Hot fix of EEB Identifier)	前の画面で入力した Hotfix または EEB 番号が表示されます。
説明 (Description)	Hotfix または EEB に関連付けられた問題の説明が表示され ます。
解決済みのバージョン (Resolved in Versions)	この問題が解決された NetBackup のバージョンが示されま す。

NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 8.3 のバイナリサイズ](#)

NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackupリリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストールに関する詳細な説明は、『NetBackup インストールガイド』、『NetBackup アップグレードガイド』、『NetBackup スタートガイド』に記載されています。

p.41 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- データベースの再構築は、多くの場合、NetBackup のメジャー、マイナー（一重ドット）、およびリリース更新（二重ドット）の各バージョンで発生します。したがって、NetBackup 8.3 にアップグレードする前に、NetBackup データベースのサイズ以上の空きディスク領域が利用可能になっている必要があります。つまり、デフォルトインストールに対して、`/usr/opensv/db/data` (UNIX) または `<install_path>%Veritas%NetBackupDB\data` (Windows) のディレクトリを含む

ファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納の詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

メモ: この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

- マスターサーバーとメディアサーバーでは、**NetBackup** を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を **8000** にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響については、ベリタスのサポート Web サイトの次の **TechNote** を参照してください。
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- **Windows 2008、Vista、2008 R2** の **UAC** が有効な環境で **NetBackup** をインストールするには、正規の管理者としてログオンする必要があります。管理者グループに割り当て済みであり、正規の管理者ではないユーザーは、**UAC** が有効な環境で **NetBackup** をインストールできません。
管理者グループのユーザーが **NetBackup** をインストールできるようにするには、**UAC** を無効化します。
- **NetBackup** のマスターサーバーとメディアサーバーは、起動時および **24** 時間ごとに **NetBackup** サーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは **vmd** サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにプッシュします。
- メディアサーバーのアップグレードの実行中は、マスターサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは **gzip** を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには **gunzip** と **gzip** が必要なので、**NetBackup** をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。**HP-UX** を除くすべての **UNIX** プラットフォームでは、パイナリは **/bin** または **/usr/bin** に存在し、このディレクトリが **root** ユーザーの **PATH** 変数に含まれていると想定されています。**HP-UX** システムでは、**gzip** コマンドおよび **gunzip** コマンドは **/usr/contrib/bin** に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、**PATH** 変数にこのディレクトリが追加されます。**UNIX** でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、[NetBackup 互換性リスト](#)に一覧表示されているオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など)。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リストで特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、ベリタス社は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。表 B-1 は、NetBackup 8.3 で必要な OS 更新およびパッチを示しています。ただし、この情報はリリース間で変わる場合があります。NetBackup 8.3 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必須 OS パッチ情報は、[Veritas SORT \(Services and Operational Readiness Tools\) Web サイト](#)および [NetBackup 互換性リスト](#)で確認できます。

p.78 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.62 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

メモ: OS ベンダーは、表 B-1 にリストされているパッチよりも優先されるまたはそれに置き換わるより最新の更新またはパッチをリリースしている可能性があります。ここおよび SORT にリストされている OS パッチは、NetBackup のインストールと実行に必要な最小のパッチレベルであると考えする必要があります。表 B-1 にリストされているものに優先されるまたはそれらに置き換わる OS 更新、パッチ、またはパッチバンドルは、特に指定されていないかぎりサポートされます。ベリタス社は、個別の OS ベンダーのサポート Web サイトを参照して最新のパッチ情報を入手することをお勧めします。

メモ: 表 B-1 に記載されている NetBackup クライアント向けの必須パッチも、クライアントが適切に動作するためにマスターサーバーとメディアサーバーにインストールする必要があります。

表 B-1 NetBackup 8.3 に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
AIX 6.1		AIX ランタイムライブラリ 9.0.0.3 以降	ランタイムライブラリは 9.0.0.3 以降である必要があります。バージョン 9.0.0.3 に変更した後に再起動する必要があります。
HP-UX		COMPLIBS.LIBM-PS32	HP-UX プラットフォーム上に AT をインストールする場合、このパッチが必要になります。
HP-UX IA-64		Networking.NET-RUN: /usr/lib/libip6.sl	
		Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.1	
		Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.sl	
		Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so	
		Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so.1	
		Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so	
		Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so.1	
		Networking.NET2-RUN: /usr/lib/libip6.1	
Windows Vista x86-64	クライアント	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新 (推奨)
	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 x86-64	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
Windows Server 2008 x86-64 (SP2)	マスター、メディア、クライアント	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。
Windows Server 2008 x86-64 R2	マスター、メディア、クライアント	KB2265716	コンピュータがランダムに応答停止する場合のホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB982383	ディスク I/O 負荷が大きい状況で I/O パフォーマンスが低下する場合のホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB983544	レジストリハイブファイルの「修正日時」ファイル属性の更新。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。

ベリタスでは、Windows オペレーティングシステムで NetBackup を実行する場合は、次の更新をお勧めします。

- Microsoft Storport の Hotfix。この Hotfix は、Windows x86 および x64 の SP1 と SP2 の両方に適用されます (必須)。<http://support.microsoft.com/?id=932755>
- Symantec AntiVirus。最新版と最新アップデートへの更新 (必須)。
- SYMEVENT ドライバの更新 (必須)。最新バージョンのドライバに更新してください。

NetBackup 8.3 のバイナリサイズ

表 B-2 には、NetBackup 8.3 マスターサーバー、メディアサーバー、およびサポートされているさまざまなオペレーティングシステム対応のクライアントソフトウェアに対する概算バイナリサイズが示されています。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が

占有するディスク容量を示します。表にリストされているサイズの場合、1 MB は 1024 KB に相当します。

メモ: NetBackup 8.3 では、Java GUI および JRE パッケージは、ほとんどのクライアントとメディアサーバーで省略可能です。パッケージサイズは、Java GUI と JRE を使用して計算されています。

メモ: 表 B-2 と表 B-3 には、サポート対象のオペレーティングシステムのみをリストしています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、Services and Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトの『インストールとアップグレードのチェックリスト』か『NetBackup オペレーティングシステム互換性リスト』(<http://www.netbackup.com/compatibility>) を参照してください。

p.62 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

表 B-2 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	32 ビットのクライアント	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
AIX	POWER		1681 MB	サポート終了	
Canonical Ubuntu	x86-64		1231 MB		
CentOS	x86-64		1236 MB	5848 MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Debian GNU/Linux	x86-64		1231 MB		
HP-UX	IA-64		2141 MB	サポート終了	
Oracle Linux	x86-64		1237 MB	5877 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	POWER		313 MB		
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		1237 MB	5850 MB	

OS	CPU アーキテクチャ	32 ビットのクライアント	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture		847 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Solaris	SPARC		1189 MB	5403 MB	
Solaris	x86-64		1213 MB	5750 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	POWER		313 MB		
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		1070 MB	5158 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture		859 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-64		483 MB	2881 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。

次の領域の要件は **Windows** に **NetBackup** をインストールする場合にも適用される場合があります。

- **Windows** システム上のデフォルトではない場所に **NetBackup** をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、[表 B-2](#) にリストされている合計バイナリサイズの **40～50%** になります。
- **NetBackup** サーバーを **Windows** クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、[表 B-2](#) にリストされているバイナリサイズに加えて必要なものです。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、

NetBackup OpsCenter

[表 B-3](#) には、**NetBackup OpsCenter 8.3** と互換性がある各種のオペレーティングシステム用の **OpsCenter Agent**、サーバー、および **ViewBuilder** のおよそのバイナリサイズが含まれます。

表 B-3 互換性のあるプラットフォームの NetBackup OpsCenter のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	エージェント	サーバー	ViewBuilder
Oracle Linux	x86-64		772 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		749 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		782 MB	
Windows Server	x86-64	261 MB	695 MB	230 MB

NetBackup プラグイン

NetBackup vCenter Web Client プラグインと NetBackup System Center Virtual Machine Manager アドイン用ディスク容量要件は、『NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client ガイド』および『Microsoft SCVMM コンソール用 NetBackup アドインガイド』にそれぞれ記載されています。

NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.62 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした **Hofix** や **EEB** がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていないか評価します。

NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Veritas はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようさまざまな互換性リストを提供しています。これらの互換性リストは次の場所にある Veritas のサポート Web サイトで見つけることができます。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

メモ: 相互に互換性がある NetBackup のバージョンについて詳しくは、ソフトウェア互換性リスト (SCL)、SCL 内の [NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)] の順に選択します。

NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

ベリタス社は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。ベリタス社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン
- 新しい NetBackup の機能

ベリタス社が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

ベリタス社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。ベリタス社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)] ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix

p.62 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 8.3 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.11 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)

NetBackup の関連マニュアルについて

メモ: UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。

Veritas は、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。NetBackup が新たにリリースされるたびにすべてのマニュアルが公開されるわけではありません。ガイドには、NetBackup 8.3 に対して公開されていない他のドキュメントへの参照が記載されている場合があります。このような場合は、利用可能な最新バージョンのガイドを参照してください。特に指定のないかぎり、すべての NetBackup マニュアルは次の場所から PDF 形式でダウンロードするか、HTML 形式で参照できます。

<http://www.veritas.com/docs/000003214>

メモ: Veritas は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

NetBackup 8.3 で公開されたマニュアル

リリースノートと一般的な管理者ガイド:

- NetBackup リリースノート
- NetBackup 管理者ガイド Vol. 1

- NetBackup 管理者ガイド Vol.2

インストール/設定ガイド:

- NetBackup インストールガイド
- NetBackup クイックスタートアップグレードガイド
- NetBackup アップグレードガイド

NetBackup Web UI ガイド:

- NetBackup Web UI 管理者ガイド
- NetBackup Web UI クラウド管理者ガイド
- NetBackup Web UI Microsoft SQL Server 管理者ガイド
- NetBackup Web UI Oracle 管理者ガイド
- NetBackup Web UI RHV 管理者ガイド
- NetBackup Web UI VMware 管理者ガイド

NetBackup オプションガイド:

- NetBackup Add-in for Microsoft SCVMM Console ガイド
- NetBackup クラウド管理者ガイド
- NetBackup CloudPoint インストールガイド
- NetBackup Deduplication ガイド
- NetBackup for Hadoop 管理者ガイド
- NetBackup for NDMP 管理者ガイド
- NetBackup for Nutanix Acropolis Hypervisor (AHV) 管理者ガイド
- NetBackup for VMware 管理者ガイド
- NetBackup ログリファレンスガイド
- ディスクの NetBackup OpenStorage のソリューションガイド
- NetBackup OpsCenter 管理者ガイド
- NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client
- NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client (HTML5)
- NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド
- NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド
- WebSocket サービス (NBWSS) リファレンスガイド

データベースエージェントガイド:

- NetBackup for DB2 管理者ガイド
- NetBackup for HBase 管理者ガイド
- NetBackup for MariaDB 管理者ガイド
- NetBackup for Microsoft SQL Server 管理者ガイド
- NetBackup for MongoDB 管理者ガイド
- NetBackup for MySQL 管理者ガイド
- NetBackup for Oracle 管理者ガイド
- NetBackup for OpenStack 管理者ガイド
- NetBackup for PostgreSQL 管理者ガイド
- NetBackup for SQLite 管理者ガイド

トラブルシューティングガイド:

- NetBackup 状態コードリファレンスガイド
- NetBackup トラブルシューティングガイド

その他のリファレンスガイド:

- NetBackup コマンドリファレンスガイド
- NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド
- NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド
- NetBackup ネットワークポートリファレンスガイド
- NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド
- NetBackup Self Service 構成ガイド
- NetBackup Self Service インストールガイド
- NetBackup Self Service リリースノート
- NetBackup サードパーティの法的通知